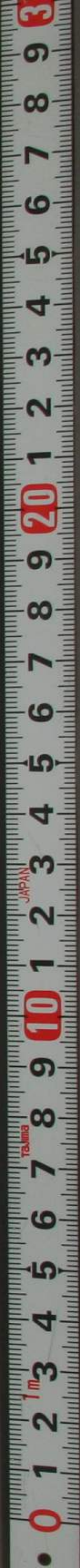


扶桑皇統記圖會
後編
三

遠
2505
13-10



明 遠
2505
巻 13-10

扶桑皇統記圖會後編卷之三目錄

決山過入隱室遭危難

惡僧伏刑淺山青雲條

无頼の惡僧隱室と見らば淺山と擒ふる圖

釋空海幼稚奇行

阿波大瀧中佐室奇苦行

室戸の菴室の惡龍現ト空海と試むる圖

空海師入唐求法

以五筆書詩水上題詩條

文珠童子小現ト空海小奇瑞と見せしめる圖

皇統記圖會後編卷之三

空海師帰朝鎮難風 投筆差隔漢書額條

東大寺蜂怪南圓堂建立 高野山開發伽藍造立

清滝川を隔て空海額の文字を書圖

東寺賜空海西寺賜守敏 空海守敏法力優劣條

嵯峨天皇御即位 守敏空海祈雨争法方條

女人禁制を犯して空海の母種ミの怪異小の圖

母公阿刀氏望登高野山 山中怪異慈尊院の條終

扶桑皇統記圖會後編卷之三

浪華好華堂野亭参考

浅山過入隱室遭危難

惡僧伏刑浅山音雲條

浅山玄吾八音賢院の記録即ちたりて緒吏小氣を働して執賄ひくる小とを

任僧清真の適意情をうけて召使ひ玄吾が物給小勤学の望あるすと

とれ八易れ吏たり。當院へも禁宦の儒先生を来りしむ。何きの儒家の門

生ふるも心任せたり先四書の如く我教導得たりとて。寺勢の暇

ある折々素續の指南に多し。玄吾好む道あれ。昼夜を捨て勵む学び

多し。程小生賃記憶より秀吉の玄吾史追々学業進む。清真も感づく。或儒

宦小頼と玄吾と入門をせむ。玄吾大い悦び。弥切礎琢磨の功を積詩を賦

と文と終る事と粗會得。儒宦の書生小も知音多かり。折節詩會の席未



小連る中ふあり。和韻贈答わじて樂ん。凡音賢菴小勤仕とる。妻一年余ふ
及ひ寺中の和尚も皆面を知り。何きの房も親しく入る。一時任侶清
真と檀越の佛更招れて。留守あり。れ。玄吾徒也。ある。修し。寺中の文珠
菴の任侶を為空と呼て。常小玄吾と招れ。囲碁の對手とる。更。為空と訪
んと文珠菴。い。う。多。小。是。も。他。出。せ。小。や。厨。所。小。僧。兩。人。机。小。倚。て。睡。り。居
る。の。と。小。音。多。も。答。る。人。も。な。り。諸。人。為。空。和。尚。も。留。守。小。や。と。望。を。失。ひ。ふ。ど
い。せ。皆。院。の。泉。載。を。一。見。せ。れ。幸。の。折。り。子。細。小。え。と。思。ひ。露。路。と。を
後。園。小。い。り。て。入。る。小。泉。水。築。山。樹。木。の。植。ぎ。多。い。と。面。白。く。覺。與。小。乘。と。橋。を
こ。り。山。小。登。り。溪。下。り。流。を。歩。む。い。り。奥。深。く。行。く。小。樹。林。の。裡。小。樓。と。く
く。急。然。小。双。六。の。筒。を。揮。音。々。え。れ。諸。人。為。空。和。尚。ハ。遊。客。と。有。て。彼。樓
小。く。双。六。を。も。樂。ま。る。小。と。て。美。次。紅。竟。思。ふ。と。独。言。茂。林。の。裡。行。く。と。る。小

果して一亭有るふと。何心かく。入。梯。と。登。り。入。る。小。豈。と。ん。為。空。ハ。あ。て。客
貌。美。麗。女。二。人。さ。向。ひ。双。六。を。ち。居。る。が。音。を。顧。て。二。女。と。も。大。小。孩。き。
面色。小。て。脚。身。ハ。何。人。あ。れ。を。此。樓。ハ。来。り。ゆ。ひ。と。答。れ。む。玄。吾。答。て。我。ハ。普。賢。菴
小。勤。仕。と。る。者。小。て。い。が。為。空。和。尚。小。内。用。あ。て。忝。り。ゆ。と。厨。所。小。ハ。え。む。と。ゆ。
後。園。小。や。脚。坐。ら。ん。と。庭。前。中。と。尋。ひ。ゆ。小。此。所。小。双。六。の。筒。音。の。せ。え。ゆ。諸。人。此
樓。小。客。人。も。と。樂。む。の。小。と。と。推。量。何。心。か。く。入。り。無。礼。の。罪。ハ。知。り。ゆ。と
辨。多。小。一。人。の。女。声。を。依。り。て。曰。脚。身。ハ。い。ま。此。樓。の。巨。細。を。知。む。り。な。か。ぬ。此。所。小。寺
中。の。僧。の。隠。き。遊。ぶ。所。が。て。他。の。人。過。て。此。樓。登。る。小。寺。僧。見。付。お。も。有。無。と
言。せ。と。逼。り。殺。と。怖。ろ。を。所。か。り。疾。く。歸。り。ゆ。と。色。と。変。て。り。小。と。玄。吾。心。研。り
諸。人。脚。身。達。ハ。任。僧。の。梵。妻。小。て。お。も。と。小。や。さ。も。あ。れ。此。樓。他。の。人。の。登。と。る。時。ハ
逼。り。殺。と。この。と。心。得。が。我。ハ。寺。中。小。勤。仕。と。る。者。あ。れ。む。さ。る。妻。も。い。す。先

御身方何國の人にて。うき寺院の梵妻となり。ゆやと向ふ。女を奪て去。近江の
 堅田村に住。藤嶋兵太と号する者。女松枝といふ者。去。年。此都へ奉。公。小
 出。或。公。家。衆。の。館。小。奉。公。と。侍。小。此。寺。の。住。僧。小。購。り。て。此。樓。へ。押。籠。ら。れ。し。て。
 又。是。多。く。八。都。の。街。の。絹。買。の。妻。小。て。あ。つ。と。と。覺。淨。と。り。僧。勾。引。て。此。所。へ。連。來。り。
 予。も。此。樓。を。下。る。吏。を。斬。り。て。強。て。逼。り。辱。す。り。辞。と。り。を。溢。り。殺。さん。と。言。ふ。
 恐。ろ。く。小。為。方。な。て。劍。の中。小。住。を。奪。る。たり。先。頃。此。寺。へ。入。る。人。過。り。此。樓。へ
 登。り。て。住。僧。見。付。三。僧。より。て。溢。殺。し。後。の。山。へ。埋。藏。し。を。奪。り。其。と。目。前。小。入。り
 主。女。們。が。恐。ろ。く。悲。し。さ。何。を。り。あ。ん。推。量。り。御。身。も。さ。さ。る。無。慚。か。る。吏。小
 遇。む。り。ぬ。ら。し。疾。く。遁。去。り。と。涙。あ。ら。し。語。る。云。吾。八。都。毎。小。駭。也。と。ま。ま。が。り
 曰。諸。も。不。測。の。吏。も。ゆ。ら。我。素。ハ。加。賀。國。の。者。小。か。右。著。と。求。ん。ぬ。酒。を。立。て。都
 へ。上。る。途。中。近。江。路。小。て。盜。賊。の。く。も。小。衣服。路。銀。を。奪。れ。為。方。小。湖。水。へ。身

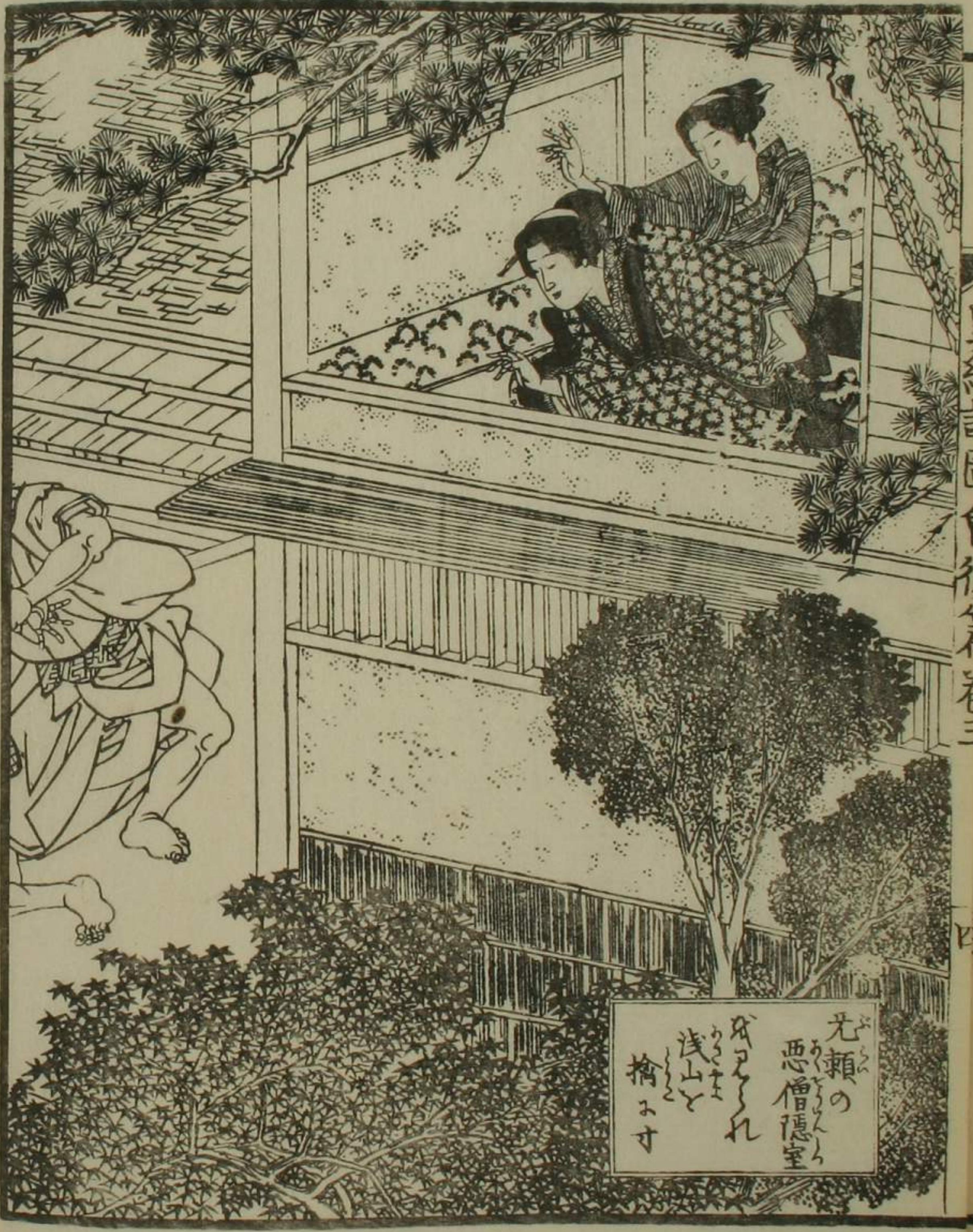
て。投。げ。戎。御。身。の。親。父。兵。太。殿。小。助。け。し。種。々。教。訓。の。上。衣服。路。銀。を。借。り
 り。猶。も。右。著。の。童。媒。中。小。預。り。當。寺。中。普。賢。院。へ。住。込。り。其。即。入。の
 息。女。を。都。奉。公。小。出。せ。と。仰。あ。ら。し。御。身。が。思。入。兵。太。殿。の。御。息。女。小。て。い。ひ。さ。る
 う。や。由。を。活。命。の。思。込。小。此。所。を。救。ひ。出。し。進。む。る。方。便。も。か。か。思。惟。さ。る。間。も。あ
 住。僧。為。空。樓。へ。上。り。來。り。云。五。と。ん。と。お。發。た。り。又。面。色。を。和。ら。げ。御。辺。何。用。有。て
 此。樓。へ。上。れ。と。向。去。吾。釘。を。甲。其。吏。小。今日。主人。清。真。佛。吏。小。糸。れ。田。守
 中。徒。並。か。る。先。見。の。基。の。勝負。を。仕。ん。ぬ。貴。院。へ。推。泰。し。せ。お。厨。所。小。ハ。ん。え
 む。ら。び。と。後。園。あ。ど。小。御。坐。る。や。と。尋。廻。り。そ。う。も。此。所。へ。参。り。無。礼。の。罪。免。れ。吏
 さ。る。お。て。も。う。る。風。流。の。御。樂。と。今。まで。隠。し。の。ひ。と。御。恨。か。れ。と。戲。吏。の。中。小
 言。々。れ。も。為。空。ハ。各。も。せ。ど。先。此。方。來。り。い。と。云。五。を。伴。ひ。樓。と。下。り。室。の
 内。へ。入。り。て。外。より。戸。を。噓。と。し。め。鎖。を。か。ら。す。音。や。え。々。る。ゆ。云。五。心中。安。ら。ず。小。諸

と松が枝が物落のどく我をも逼り殺まん巧むかへ始り斯とあも私くら
 くと為空を捉へ左も右もせんむるものを賺して此場を遁は公廳の辨へんと
 思ひ手延ふして却て死穴に陥しと悔れと後悔暗と喙をうけり程や
 為空六覚浄とくる同僚の悪僧を伴ひ来り鎖を閉く内入玄吾とる眼
 を瞶し你妻小我徒が密遊の樓上へ天命の尽る所なり今六覚期と速
 く小自滅せよと詈り懐中より細索と短刀と一貼の毒草と取出て玄吾が前
 あく置此三品の中你が欲する品にて死を急よと猶豫小及も我徒兩人
 て溢り殺すと命とを言尾小付覚浄も悪まげ疾くせよと急まらる玄吾は心
 て強ぐ心を押鎮り是六日未の御好意も似る仰ふ下僕に御寺中小住者
 て所習は穴の狐比れを何ぞ和尚方の密更次他小洩しはる如何の誓
 詞神文をも書いべ此度の二命と助けよと約束を場と謝頼れども為空嘲

と云ふ布留那の弁と借とも助命思もあらず我徒が兼ての誓盟も剃髪漆衣
 の者隠宅と知とも是と怒り有髪俗鉢の者親に絶朋友とも決して死
 許さすと況や無縁の你不於也詮ある更を言ふ疾寂滅せよと睨とえて
 言々も云吾まご曰はむ僕も剃髪得道と御弟子たり大馬の勞と尽と
 仕むるべ一万望御慈悲にて御助命給らばと涙とも願ども両悪僧を馬
 耳風と流し覺浄玄吾小ち向ひ你日未の常給小学業上達せを宦家仕
 官せんと言小非や世小今更の叶ひを望んで俄小剃髪と望むとも何と許す
 べき你を生置て我徒杖を高くまがし死に遅滞せむ手と下まんと玄吾と
 中小技と己小逼り殺さん手其体牛頭馬頭の罪人を呵責す小一般より玄吾は
 其勢ひの随れと死と絶とまき方便なく世仰とる上も力なり漢く刃小伏く
 死に命を但主人清真御房此年来高恩を受且遺り取索要の



山山



尤頼の
悪僧隠室
成りて
浅山と
捨ふ寸

更もいむ。生前一月逢しめ。又然れ甘心と快く自害しゆ。と言われ。為堂
 曰。你清真不逢て助命とて人々對面を望む。あつたれ。も。清真とて。我
 と同意あれ。敢て你を助をさず。然れ。日來好涼。對面。得。す。下
 とて。覺淨とて。ふ。吾を緊く縛り。然て。覺淨。清真を呼來し。む。間
 かく。覺淨。清真を。道とて。来り。清。真。ハ。吾。縛。れ。る。成。て。孩。れ
 ち。吾。向。ひ。你。我。留。守。す。ま。外。出。と。我。徒。隱。所。を。見。し。你。不。覺
 あり。年。來。信。や。勤。你。が。此。条。の。見。道。と。是。今。你。が。前。生。の。惡。業
 爰。不。報。り。わ。然。も。昔。も。主。徒。と。あ。り。好。涼。を。以。て。逼。り。殺。と。更。免
 得。さ。ま。只。此。三。品。を。何。ま。が。り。も。欲。と。る。品。を。用。ひ。て。自。殺。せ。よ。亡。骸。ハ。我。埋。葬
 親。跡。を。吊。ひ。得。す。下。と。言。せ。諸。馬。空。覺。淨。向。ひ。我。徒。三。人。が。手。下。て。渠。人
 を。逼。り。殺。ま。ん。と。安。れ。も。流。石。此。年。月。召。使。し。者。多。れ。も。手。と。下。を。不。忍。此。室。ハ

関籠ちけを隱形の術を得。り。も。適。き。出。入。更。能。べ。ず。今。日。死。せ。む。ん。を。明
 日。死。せ。む。ん。を。明。後。日。よ。も。吾。と。過。さ。し。も。五。日。と。過。し。て。も。死。む。を。其。時
 小。我。手。づ。り。溢。り。殺。と。す。只。皆。渠。が。自。滅。す。我。待。と。す。と。宥。め。る。ふ。り。兩。人
 も。中。く。納。得。し。き。も。と。て。三。僧。も。外。出。堅。く。鎖。を。お。ろ。て。己。が。隨。意。互。別
 々。の。玄。五。只。思。ひ。ゆ。あ。ぬ。大。難。不。遭。今。道。々。小。道。か。く。三。僧。の。隱。惡。と。惡。憤
 り。我。身。の。薄。命。と。悲。し。胸。を。焼。け。腸。を。穿。る。心。地。か。が。今。ハ。助。る。も。死。命。の
 ま。た。死。し。て。二。念。の。怨。鬼。と。か。り。三。僧。を。魁。殺。し。て。此。仇。を。報。せん。と。心。を。定。め。と。も
 溢。て。死。せ。む。死。刃。や。伏。命。と。索。と。り。上。短。刀。を。採。て。見。千。思。万。慮。ま。れ。も。更
 小。心。決。せ。む。と。忙。せ。し。て。途。方。小。昏。々。り。然。る。小。樓。上。ハ。松。が。枝。玄。五。が。寺。僧。の。為。小
 逼。り。殺。され。ん。更。を。哀。れ。父。兵。太。が。も。慈。善。の。心。を。以。て。命。を。助。し。者。也。又。悲。命。の
 死。を。あ。と。更。の。便。あ。さ。と。心。中。深。く。歎。し。小。清。真。が。宥。め。小。依。下。たる。室。小。押

篋自殺せむるよしと、鏡の少少、心成安ん、如何も救へんと、今一人の女と、
 高儀、遁れ出ぬれ手段を、微細と書きて、めて、并み堅く、巻置とて、板敷
 の透間より下、落し、中り、多る。去る、死覚期の思惟、迷ひ、手と拱て、黙むと、半
 居、多る、小、忽ち、上より、落る、音、甘く、小、筋、首と、上て、左右を、見、果して、一物、あ
 て、手、把て、る、れ、竹の、筭、小、巻、る、文、か、り、糸、を、巻、戻、し、と、續て、る、れ、松、枝、の、手、跡
 と、覚、室、中、と、遁、出、ぬ、れ、手、段、を、紀、身、と、遁、れ、出、ぬ、を、宜、ふ、松、女、們、を、由
 救、ひ、し、の、文、意、か、り、去、吾、大、小、怡、海、月、の、骨、を、得、る、思、ひ、の、文、の、教、の、く、
 草、索、の、端、小、短、刀、結、付、て、梁、と、お、越、せ、其、索、と、手、繰、上、り、幸、じ、て、梁、中、り、付、身
 と、匍、匐、て、屋、根、際、の、壁、を、短、刀、で、切、破、り、よ、と、潜、り、出、て、る、れ、早、月、黄、昏、過
 ぬ、く、仄、暗、り、る、も、天、の、佐、と、怡、下、下、下、り、後、の、山、より、無、二、無、三、小、身、と、遁、出、万
 死、と、出、て、一、生、を、と、得、る、も、斯、く、其、罪、目、の、ゆ、り、ん、む、三、人、の、惡、僧、集、會、一、人、

彼者自滅せむるよしと、鏡の少少、心成安ん、如何も救へんと、今一人の女と、
 高儀、遁れ出ぬれ手段を、微細と書きて、めて、并み堅く、巻置とて、板敷
 の透間より下、落し、中り、多る。去る、死覚期の思惟、迷ひ、手と拱て、黙むと、半
 居、多る、小、忽ち、上より、落る、音、甘く、小、筋、首と、上て、左右を、見、果して、一物、あ
 て、手、把て、る、れ、竹の、筭、小、巻、る、文、か、り、糸、を、巻、戻、し、と、續て、る、れ、松、枝、の、手、跡
 と、覚、室、中、と、遁、出、ぬ、れ、手、段、を、紀、身、と、遁、れ、出、ぬ、を、宜、ふ、松、女、們、を、由
 救、ひ、し、の、文、意、か、り、去、吾、大、小、怡、海、月、の、骨、を、得、る、思、ひ、の、文、の、教、の、く、
 草、索、の、端、小、短、刀、結、付、て、梁、と、お、越、せ、其、索、と、手、繰、上、り、幸、じ、て、梁、中、り、付、身
 と、匍、匐、て、屋、根、際、の、壁、を、短、刀、で、切、破、り、よ、と、潜、り、出、て、る、れ、早、月、黄、昏、過
 ぬ、く、仄、暗、り、る、も、天、の、佐、と、怡、下、下、下、り、後、の、山、より、無、二、無、三、小、身、と、遁、出、万
 死、と、出、て、一、生、を、と、得、る、も、斯、く、其、罪、目、の、ゆ、り、ん、む、三、人、の、惡、僧、集、會、一、人、

日の暮るまで二人の女成後の山深く身を隠し、乃ち調度遊戯の緒を断り、後園の井中へ沈み隠れ、おどろけ狼狽強たて、半の舞足の踏を知らず、まが貧り、肝下金銀を肌か著、専ら落支度とどろき急たぐる。是より公前浅山去吾、左右とどろき、楞嚴院の山を超て、身を遁じ、年来懇意の学友、許へぬ、楞嚴院の寺僧が奸悪の條と、遂に告ぐれ、むす者皆齒を切て、悪く憤らざる、おの依て去吾、学友と俱に折狀と書記て、有司の廳へ辨へ、多し、即ち去吾、小巨細を歩し、寺僧の悪行、更明白を、追捕の官吏、數十人をさし遣され、去程、小官吏の面、楞嚴院へ馳到り、房毎、小踏込寺内の僧俗を悉く、搦捕せ、小と為空、清真、覺淨、三僧、小本堂の内陣、小寄集て、旅支度を整へ、居る、小早官吏、向よりと、歩み、小仰天、須弥壇の下、佛像の影に、こぼれ、這隠し、佛名と唱へ、裸死居る、官吏来りて、搜し、出て、搦捕、二人の梵妻を尋せ、小更

小在所、おられ、され、三僧と曳居、小問、はる、小左右、陳と、白状せ、ざる、ゆ、強く、踏向、これ、苦痛、小堪、る、遂、後、の、山、小隱、る、由、白状、する、是、小依、て、後、の、山、を、尋、の、二人、の、女、も、搦捕、以上、三十、余、人、を、曳、て、有司、の、廳、へ、入り、斯、と、言、上、ぐる、む、悉く、獄、中、へ、入置、中、の、小惡僧、三人、を、水火、の、責、め、り、て、踏向、せ、ざる、小己、が、惡行、を、尽、く、白状、小及、び、ぐる、有司、甚、い、惡、僧、徒、の、身、を、て、他人、の、女、妻、を、妻、を、勾、引、刺、隠、所、を、見、し、者、と、逼り、殺、せ、り、條、言、語、日、断、の、重罪、なり、と、大、路、を、肆、一、車、く、死刑、小行、れ、其、余、の、者、小侵犯、の、科、なり、と、い、も、三僧、の、奸、惡、邪、淫、と、知、る、が、疾、辨、へ、ざる、罪、小依、て、重、た、八、流、罪、狂、れ、追、放、小行、れ、る、次、小、二人、の、女、小惡僧、も、小白、状、され、已、更、を、得、じ、寺、中、小押、筆、筆、られ、任、せ、趣、れ、ある、罪、なり、と、其、親、夫、を、召、出、し、て、刃、渡、され、去、吾、と、辨、人、の、廢、賞、と、り、て、金子、と、給、り、る、楞嚴院、の、二、件、落、著、一、念、僧、居、の、不、法、を、林、小、引、られ、る、浅、山、去、吾、三、僧、の、死、刑、小行、られ、必、足、り、憤、を、晴、し、且、官、より

御麻呂美をさへ給りし時、支限りなく、心小思ひく、我両度の大危難を免れ
 一、藤嶋又子の厚れ情小侍と云、れを思を謝せむ、有るが守とて堅
 田村なる兵太が家小り、子、再度の鴻恩を礼謝し、謝義の、一畏り金
 子と早し、兵太固く辞して押返す。吾が高運を賀し、今度の折松小
 依て女松が枝も無難ふ、之を悦び、吾と家小、悦びの酒を酌ら、松が
 技い、定まる夫も、年齢も、合、れを遂小、吾と婚とわ、て取せ、系
 と、吾大の悦び、京都へ出て、医業と始、追く敏、昌、兵太を呼、り、
 夫婦孝養と場、安樂小、老と養、め、偏、隱徳の陽報、り、
 釋空海幼推奇行 阿波大瀧山佐室戸崎苦行更
 嵯峨天皇の御飯依僧小、釈空海と、本朝無双の名僧在、り、其系、
 尋、父、八瀨、岐、國、丹、度、郡、屏風が浦の住人、佐伯氏母、阿刀氏、
 抑、佐、伯

氏の先祖、景行天皇の皇子、稻脊入彦命と、人、日本武尊小、隨、て、東、夷
 を征伐し、頗る勲功有、り、其、思、賞、と、て、瀨、岐、國、小、地、を、班、ち、給、り、
 より、屏風が浦を居所と、稻脊入彦命の孫、阿良都別命の男、豊嶋と、云
 人、孝徳天皇の御宇、小佐伯直と、姓、以、ひ、後、直、を、略、して、佐伯氏と、名、乗、れ
 其、子、孫、の、佐、伯、某、伊、豫、親、王、の、学、師、從、五、位、下、阿、刀、宿、禰、大、足、の、姉、と、娶、て
 妻、と、し、小、佐、伯、氏、初、老、の、比、ま、ご、一、子、無、を、歎、れ、三、室、小、祈、誓、し、て、一、子、を、授
 め、と、丹、城、を、疑、し、祈、れ、其、信、心、を、諸、佛、も、感、納、在、り、一、夜、の、夢、小、一、人、の
 聖、僧、端、嚴、微、妙、なる、か、妻、阿、刀、氏、の、懷、中、小、飛、入、と、入、て、夢、覚、り、諸、夫、婦
 夢、を、語、合、ふ、小、同、い、夢、り、奇、異、の、思、成、り、内、程、か、阿、刀、氏、妊
 娠、し、二、月、小、平、小、男、子、と、生、り、是、先、仁、天、皇、五、年、六、月、十、五、日、な、り、父、母、の、悦、び
 斜、も、靈、夢、を、感、じ、て、儲、子、と、推、名、と、貴、物、と、呼、電、愛、す、事、と

掌の玉のて。此兒四五才の比より尋常の兒と交り遊む。只土を掘て
 像の形を作り或は竹木を以て堂舎の体と撰り。禮拜供養とて遊戯
 して樂む。父母相結て此兒成長の後、出家得道す。やとやれ
 る。然る貴者六才の年夢小緒の佛菩薩八葉の蓮花の上座して說法
 する。心も深し秘して父母も夢の更と結らむ。内心小ハ
 佛に入んとの志願是より起り。斯て後、彌三窟を崇り菓餅を以て得
 と。先佛前供て供糧。其後あて食する。更なり。八才の年都の巡察使
 續州へ下向有る。岡中の男女老少路の両辺小群りて其行列を見物。小
 貴者も衆人小雜りてとも見物。巡察使貴者を見て俄馬より下て
 禮拜。其所を過て。馬に乗られ。衆人不審暗む。何ゆ。中
 んと私語合する。吾小行きて。巡察使の從者主小向ひ。今彼所小下馬

禮拜のい。如何なる故。いと問。巡察使曰。你們を彼所小居る
 小兒。凡そあ。四天王天蓋を捧て守護。更り。我何と下馬せ。んと語り
 々。是より貴者。維のた。佐伯氏の子。神童あり。と言觸る。其
 後貴者十二才小なり。い。智万人の勝。行迹長者も及。三窟を出る
 更倍深。り。一時。又我子小向ひ。父の家督と嗣て先祖を耀。一國治
 めんとす。や。出家得道して佛菩薩小仕人とす。や。いと問。貴者各て
 武士とかりて一國の政事とす。治るとも。鏡小一國の人民を安穩ありむるの
 出家して佛道を修行。普く末世の衆生を濟度せん。と廣大の功德あり。曰
 々。父も理小伏して再ひ言と。幾とる。更能も。宗外威阿。大足来りて佐
 伯氏小曰。子息已小十才。及む。ま。大學小入り。經史以學。じむ。我都
 將て上り。教導すと。曰。れ。父母も。怡ひ。其。小順ひ。貴者で。大足小願け

るるゆへ大足貴者と將て都上り大學小入り續書と指南をも小天性人
あぬ奇童多れど一度讀む暗記二度讀む理に通多小ど大足も大
感也我此兒不及遠しと驚歎多斯て貴者大足の許小留學て
螢雪の功を積こ三年普く緒經と學び究め十五才の年學士淨成隨ひ
毛詩尚書易經等と學び十八才にて又岡田の博士小就て春秋左傳を學
ひ其余の書典涉獵せざる隈もあ皆其深理緼奧を究め手跡よ無双の
能書なりをいす成童して博學能書の名世も高然も貴者儒道
小心を留めど心中所想錯今も學びる典籍只眼前の理のわけて二期の
後の利弱なり不如滅の福田を求人おとて岩淵の贈僧正勤操の弟子とあり
て佛道と學び切磋琢磨して大虛空藏あび小能滿虛空藏の法と授
りたり此法ハ往昔大安寺の道慈律師大唐小渡り緒法を學べり小善

元畏三藏小逢其與昔と授り歸朝の後大安寺の善儀小傳善儀又勤
操小授ける大秘密の法なり去程小貴者法名と元空と改め佛道修行小
丹誠を疑三教指歸と書と編延暦十六年十二月初の日草搗成就す
其文意ハ俗教の益あれを述られ也書の略小曰朝市の采花念小是と
いひ嚴敷の烟霞ハ日夕小是を衽ぐ狂肥流水と見く即ち電幻の致れ
忽ち小起り支離懸鶉を見てハ則ち因果のあれ日毎小深一見小されて我
を勸じ維る風を収む茲小一の親戚あり我を縛る小五常の素とて我
我断る小忠孝小背くとりて以て予思ら物的心小あをも飛沈性皆異之
このゆへ小聖者の人を得小教網小三種あり所謂釈李孔なり淺深隔有と
ども並小皆聖統なり一の羅小入を何を忠孝小背ん此書一部三卷
始と讎諷指歸と題せれと後小三教指歸と改められ今も世小傳り

普く緇素賞覽せり。斯く无空六佛道修行の事。普く山林雜所と涉
 覽して修練の爲小身命と捨れん。師勤操僧正の苦行をあられて
 无空の十九才の年。延暦和泉國榎尾山の中山西空寺より。小於く剃髮せり
 り。沙弥の十戒七十二の威儀を授け法名を教海と改めり。後又如空と稱せ
 られり。延暦十四年四月九日。東大寺に於て唐僧表信律師と傳戒の導師
 と。勝傳豊安以下と。小比丘の具足戒を受此時。名を空海と改め
 らる。是より戒珠を胸の間に佩し。徳瓶と堂の中。携へいよく俗塵をいひ
 倍幽閑を去り。山より山へ入峯より峯へ往り。練行日と重の薰修年と
 送り煙霞と嘗て飢を忘る鳥獸。小別く友を。或時阿波國大龍の嶽に
 登り虚空藏の法を修行せり。忽ち二振の宝劍壇へ。私来りて虚空
 藏菩薩の靈威と顕る。件の宝劍大龍が嶽の不動の堀。小今尚納れり

其後土佐國室戸崎より。此地南海前。高巖側。小嶺
 松を拂嵐。旅人の夢を破り。芝を踏み。谷の水。隱士の耳を洗。亂れ幽邃の地
 らん。是を愛して草菴と結び。小住居して求聞持の法と修。觀念せられ
 々々。明星中。散りて佛力の奇異と現る。空海即ち口中の明星を海
 中。小向ひて吐き出され。其光水。小沈み。末世の今。小い。遠國夜。小海底。小星の
 光。聚成り。不思議と。小も。疎かり。斯く。室戸の菴。室小行。澄して在り。空
 小遠。辺の里人。空海師の道德を慕ひ。訪ひ。き。人。多。り。空海を
 却。是。を。煩。々。物。強。し。小。思。ひ。一。時。の。歌。小
 法性。の。む。ろ。戸。と。き。け。ど。我。住。む。有。為。の。波。風。寄。ぬ。日。ど。あ。れ
 と。詠。は。れ。る。此。室。戸。の。海。小。惡。龍。在。て。空。海。師。の。行。法。を。妨。ぐ。種。々。の
 形。小。變。じて。出。現。し。る。れ。ども。空。海。公。我。と。て。亦。も。怖。と。ま。真。言。と。唱。へ。唾。を。吐

室戸の
龍妖魔
現空海
試寸



室戸の龍妖魔現空海試寸

室戸の龍妖魔現空海試寸

くけられざる小其光散ると衆の星の闇と射るが如し。是れ依て毒龍心
なり退散して再び障碍をふると更紙を右の唾海濱の沙石小とす
て。今猶夜光の珠の如く昏れた夜小光を放つとや。室戸の崎より此余町
を隔て一箇の勝地あり。空海師其地小一字の伽藍を建金剛定寺と号け
られざる。此小其辺の魔魅佛法を障碍んと異類異形の姿と現しを
空海即ち結界して魔縁と回答す。我此所小在人限り。你们此寺へ来る
登るもとて。年登大木の楠小自身の像と彫付置とを。魔類其後と
形現し得ざりたり。其後空海師諸國を經曆して難山切所の人も通ハ
ぬ所の道を踏用り。更敷まれば播大國あて。老女の菴の柱小天地合り三
字と書付られ小其筆痕深く木小入り削し。矢ど瘡疾流行病と受
者八件の文字と水小うして飲を立所小愈るとか。人又伊豆國桂谷小てハ

虚空へ大般若經の大事品の文を書て永く障とす。其他諸國小
悪毒毒蛇を降伏して人民の害と除く。更敷とす。実小不可思議の名
僧とふと。貴賤となく其法徳を尊信せざるふりたり。

空海師入唐求法 以五華書詩水上題詩條

空海師佛法弘通の為小緒國と廻り。遍く緒宗の碩徳小就て緒経乃温
真を問究せられれども。三乘五乘十二部の経猶心底小疑とす。看て決
とる更能きり。佛前小於て誓願を起し。おれ願くハ三世十方の諸
佛菩薩垂我小不二の要旨と示して疑ひを解しめんと。一心小祈られざる小一夜の
夢小神人ありて告て曰。大和國高市郡久采の道場の東塔の本小妙経あり
大毘盧遮那経と号く。是往古中天空の善无畏三藏此日本渡り彼道場
小収めおとらかり。早く彼所小到り右の妙経を閲して疑ひを解べと告る

とて夢覺さる。空海師大に歡喜ありて。急遽和州久米の道場(いとう東塔の内陣)に入らる。果て大毘盧遮那經と題せし經卷有る。頓小減を解て開せしむ。猶も疑ひの解ぬ所あり。今本朝めて疑惑を同明むる方なり。此より唐土(渡りて名僧を尋求胸中)の疑ひを解んものと。始て入唐の望とぞ。我れも。叔二十四の年三教指歸の清書とせし。二十七の年阿州大龍山を開基ある。其後三十一の時撰武天皇。藤原葛野丸を遣唐使せし。副使石川道益。判官菅原清公。録史浅野鹿取り。是に依て空海師求法の為入唐せし。其時最澄大師。學士橘遠成も。船を願ひ入唐せし。時延暦二十三年六月。有遣唐使以下の船肥前國松浦より出帆。海上障り。八月十日唐

土の港(著岸)に多ふ。唐帝の觀察使濟美といふ者。和國の使者と疑ふ。船より上りし。十月十三日。舟中置かれ。遣唐使葛野丸大に退屈。空海師を招て。書牘を作めて。其と濟美方(達せし)る。濟美其父草の奇絶なると感。遂に疑念を暗して。遣唐使以下と船より上り。長安の都に送り。空海師の父(妻)羊籍(小載)の略斯。空海師(翌年)三好唐の西明寺乃永忠和尚の故院(小豆)其比唐土(小)碩德の聞え高き青龍寺の慧果阿闍梨の許(小)始て謁見あり。慧果満顔(小)喜色と表し。我々と待吏(小)とて。旧相識の言談。懇小(宣)侍し。法義と議論と緒の秘法を授けらる。中(小)も五部の灌頂三密加持の法を傳授し。大悲胎藏曼陀羅の灌頂を授けらる。空海師華と拙。毘盧遮那如來の身上(小)著され。慧果阿闍梨大(小)是を賞讃。有る。日(小)年七月。空海師又金剛

曼荼羅臨五部の灌頂を受華と抛て再毘盧遮那佛の身まんぢうあつに著あされ
 されこれを阿闍梨あじかりとす大おほに賞嘆せうたんあり二度にどあをも二度にどあて毘盧遮那佛
 小抛こちり得ると更さら古今ここんのれい例れいをまままとと六絨ろくじゆん小せう夫ふああをも昔むかし執しやく尊そん秘密ひみつ真
 言ごんごんの印いんを金剛薩垂こんかうさつし小せう付ふ属じゆくのの薩垂さつしを龍猛りゆうもう菩薩ぼさつ小せう傳でんへのけり
 展てん轉てんして不空ふくう三藏さんざう小せう傳でんりり不空ふくうまま我われ小せう授じゆけけられられるる你なんととんん小せう秘ひ密みつ大
 根こん器ぎありあり依よて我われ金胎こんたう二部にぶのの大法だいふ秘法ひふ緒しゆのの印信いんしん及び及び金剛頂瑜伽こんかうていよか五部ごぶ乃
 真言ごんごんを悉しつく授じゆへて懇こん小せう傳でん授じゆへて你なん此こ金剛乘教こんかうじやうおよびおよび三藏さんざうの所しよ付ふ供
 兼けん付物ふつぶつとと本ほん國こく歸きり緒州しゆしゆ小せう真言ごんごん秘密ひみつの法ふとと私しめめよよ去こるるを四海しがい太平たいへい小
 て万民ばんみん豊饒ほうじやうありありとと緒しゆの經論きやうろんありありびび健陀國けんたこくより傳でんけけるる袈裟けさ日珠じしゆ
 數ずホホとと遍照へんしやう金剛こんかうとと号ごうけけられられるる空海くうかい師し歡喜くわんぎ踊躍うよく小せう堪かんとと深
 く師恩しおんをを謝しやせせられられるる其その後ご慧果けいこ阿闍梨あじかりとと入寂にじやくの期き近ちかれれをを知

覺かくありありて空海くうかい師しを招まねて我われ徒た弟てい數かずありありとといいふふ也なり皆みな其その器量きりやう狭せまく根氣こんき
 薄うすくくと佛法ぶつぽうの蘊奧うんおくを悉しつく譲じやうり授じゆへて足たりむむとと云いふふ你なん遠とほくく此こ國こく小せう來きり
 師し弟ていの契約けいやくをを我われ秘訣ひけつをを盡じんく傳授でんじゆへて今いま望足ぼうそくありあり我われ已すでに現世げんせいの化
 縁えん盡じんありありとと久ひさくく苗なぶぶとと前まへに經論きやうろん佛具ぶつぐありありとと譲じやうりりとといいふふ尚なほ又
 遺いるる宝器ほうぎとと譲じやうりりとといいふふ佛舍利ぶつせり八十はちじゆ粒りつ中ちゆう金こん色しきのの等とうとと白はく縹へんの大だい曼まん陀た羅
 五ご室しつの三昧さんまい耶や金剛こんかう及び及び種しゆの靈器れいきを悉しつく授じゆへて懇こん小せう傳でん授じゆへて程ほど小
 病床びやうじやう小せう亦また卧ふ遂す小せう唐たうの永貞えいしん元年げんねん十二月じふにがつ十五じふご日にち手て小せう密印みついんとと結むすびび眠ねむるる
 僊せん化げせせられられるる緒しゆの徒弟たていの悲歎ひたんありありとと我われ空海くうかい師しハハヨヨリリてて數かずの色しき深
 く紅淚くわうるい小せう三衣さんいの袂たもとをを綴つぎりり追戀つひれんの念ねんありありとと云いふふ則すなはち師しの墓ぼ小
 碑いしを建た自身こみづか碑文いせんとと作つくり慧果けいこ阿闍梨あじかり二に代だいの道徳だうとくを綴つぎりり著あされられるる其
 文辞ぶんじ絶妙げつめうありありとと唐たう朝てうの鴻儒くわうにゆ碩徳せくだくも是こゝと賞美せうびへへ人ひと小せう贈くわう多たく

空海師あまのうみ不空三藏ふくそうさんざうの高徳たうとくを慕まほひ其住所そのぢうじよ尋行じんぎやう相見さうけんせられふく空
大おほ小こ怡いひ我われ幼わか者もの昔むかしより佛ぶつ門もん入い晋しんく五天てんか堂だうを経きん歴れき修しゆ行ぎやう此この唐たう王わう曰いく
法はふを私しち更さら小こ海かい小こ法はふ今いま日本にっぽんへ渡わたり私わたくし法はふせんを欲ほつむれども期まいりま熟じやくせんを身み
己おのれ小こ老らうらう然しかるる你なんぢ小こ逢あひ我われ名な願がんの達たつをなれ時ときなり依よつて我われ譯やくせし華け嚴げん六
波な羅ら密みつ徑ぎやうかがび秘ひ密みつの経きん論ろんを授まけり我われ小こ交かうて任にん願がんの法はふと私わたくしめよとて
される多おほくもも空くう海かい師し歡かんび小こ堪かんむ即すなはち止と宿しゆくと諸しよ徑ぎやうの秘ひ訣けつと悉しつく学がく究きゆう哉
干かんああむむとて来きたり其その去きよよ小こ通つう達たつせられけり不ふ空くう其その俊しゆん力りきと深ふかく感かん賞しやうし南
天てん竺ぢゆく龍りゆう猛まう菩ぼ薩さつ下かり傳でん来らいせし三さん股こ拵しゆ及及び諸しよの経きん卷くわんと盡じんく附ふ属じやくせられ
々々空くう海かい師し大おほ小こ怡いひ拜らい受じゆと恩おんを謝しやし辞ことばと告つげて旧ふる西さい明めい寺じの故こ院いん歸かへ
り任にんせらるる唐たうの帝てい憲けん宗しゆ皇わう帝てい空くう海かい師しの博はく文ぶん法はふ徳とくを睿ずい聞ぶんあつ宮みや
中ちゆうへ召めささ諸しよ徑ぎやうの文ぶん義ぎを問とひ小こ空くう海かい師し悉しつく言ことば下くだり答こたへらるる更さら卿きやう貴きの物もの

小こ應おうむむらら如ごとくあれ憲けん宗しゆ帝てい其その剛かう記き能のう弁べんと大おほ小こ感かん賞しやうありて重おもく卿きやう食じやく應おう
一いつ給たま帛ひつ珠しゆ玉ぎよくを賜たまひ宮みや中ちゆう小こ笛ふえり種たねく宣のたま侍しやくしのひ々ひ々々宮みや中ちゆう小こ三さん間かんの張ちやう壁へき
あつて晋しんの右う将しやう軍ぐん王わう義ぎ之の手て跡あとをとめらるる小こ年ねん経きんて破やぶ壊くわいせられる今いま
般はん二に間かんを修しゆ理りさせられる筆ふでと下くだりる程ほどの能のう書しよと得えられる其その尺しゃく寸すんありて有あ
々々憲けん宗しゆ帝てい空くう海かい小こ尚しやう小こ對たいひ師し能のう書しよの字じえ高たかし此この壁へき小こ一いつ筆ふでと渾こん山さんと
仰おほせる小こ師しささりも辞ことばする色いろなく左ひだり右みぎの手て足あし小こ筆ふでと執とりて小こ筆ふでと會あひあ
所ところ小こ五ご行ぎやうの書しよと日ひ時とき小こ書しよれらるる其その筆ふで勢せい墨ぼく色しき殊こと絶たつて龍りゆう牙が虎こ爪つめもひり
る古ふるの王わう義ぎ之の王わう献けん之のしるも猶なほ及及びむむぎらら斗たうたり今いま之の間かん小こ墨ぼくと盤ばん小こ壁へき
小こ向むかへむかへむかぎぎりりけられる小こ自ぜん由ゆと樹じゆの字じ小こ上かみ下した左ひだり右みぎの位ゐ置ち正ただしただ
々々れを帝ていも諸しよ臣しん下くだり是こゝをこゝ人ひと驚おど嘆たんせせるる行ぎやうくく帝てい睿ずい感かんののあり
勅ちやくして五ご華け和わ尚しやうといい号ごうとと下くだされる藏ざう小こ前ぜん代だい例れいをを定さだむむ後ご代だい又また有ありり

能書小て敢て几庸の及む所なり。唐帝空海和尚を深く尊信あり。願
くハ師永く朕が國小苗りの朕が師と仰ぐ大寺を建て住せしむ。眞の
々れも空海和尚承伏の色なり。君命滅ふ忝むいふも。拙僧身と忘れ命を
抛つて遠く蒼溟と渡り貴國小来りのハ佛道と倭國小弘め普衆生で
化度せん。あまの心恐るる王命小應じまら難くと詩しやれ。唐
帝も抑苗あまの更能く。現世の契ハ薄くとも。来世ハ師の教化と永
受がれ證ふと。空庫小秘置と。菩提子の珠數と給り。其余等々の
宝器と下され。和尚大い小怡び謹んで頂戴あり。右の念珠ハ今猶東
寺の宝藏小納有と。其後空海和尚城中の東西南北を巡りて遊覽有
所小一流の洞河あり。少時停立水相を觀じて在る小忽ち一人ハ童子
體とて出来り。空海和尚つて童子の体と見らる。小蓬の髪ハ乱

肩ふる。身小著る藤の衣ハ破ま。膝小見たり。時ハ童子空海和尚向
ひ師兄ハ倭國の五華和尚おて在ると。向師ありと答られ。童子曰
あつて此流る水の面小字と書てん。何所より華硯をとり来りて和
尚の前小置り。空海師ハ安ん義ありと。華と批水面清水と續
詩を書れ。ふ。文点少も乱と。鮮小文字淨とて流れ下り。ふ。と。重子ハ
屢感賞。師小做ひ。我ハ一字と書て試み。華と批て。水すい面めん小草
書しよのの字じと書かく。是も水みづ浮うとて華勢けいふれず。又流る。更またか。我
ハ我の字ハ右の点を。空海師童子小向ひ何更ハ点を。と。わ
と。問とは。童子完示とて。実まこと心こころとひ。と言いはる。華と批て。と。わ
勿な心こころも山河鳴動。水面の龍の字。眞の龍と変。光を放ち。鱗角と鳴。雲と
呼起して。虚空ハ飛昇り。其時童子も身と躍して。龍の背小乗。う。よ。見



阿彌陀佛 阿彌陀佛

を建^{そんり}三^{しゆ}一^{いち}衆^{しゆ}生^{しやう}活^{くわく}度^どの法^{ほふ}燈^{とう}を灯^{とう}籠^{ろう}と誓^{ちか}ひの不^ふ空^{くう}禪^{ぜん}師^しより授^{まか}りゆひ^ひ南^{なん}天^{てん}
 竺^{ぢく}龍^{りゆう}猛^{まう}菩^{ぶつ}薩^{さつ}傳^{でん}末^{まつ}の三^{さん}股^こ杵^きを取^と半^{はん}心^{しん}中^{ちゆう}祈^{いの}念^{ねん}此^こ宝^{ほう}器^ぎの由^{よし}る処^{ところ}伽^が藍^{らん}を造^{ぞう}
 立^たせんと天^{てん}小^{せう}向^{かう}ひ^ひ抛^なち^ちま^ま不^ふ思^し議^ぎあ^あら^らふ三^{さん}股^こ杵^きハ飛^ひ鳥^{てう}の^の空^{くう}と翔^{せう}りて杏^{ぎやう}
 東^{とう}方^{ほう}へ私^し去^そ去^そ今^{いま}を荒^あ吹^か一^{いつ}惡^{あく}風^{ふう}漸^{ぜん}く^く小^{せう}吹^か止^と高^{かう}浪^{らう}鎮^{ちん}りて船^{せん}穩^{えん}ふ成^{なり}れ^れ眞^{まこと}人^{ひと}逸^{いつ}
 成^{なり}を看^みる船^{せん}中^{ちゆう}の諸^{しよ}人^{にん}蘇^そ半^{はん}心^{しん}地^ぢて是^{こゝ}は^は小^{せう}空^{くう}海^{かい}十^{じゆ}の法^{ほふ}德^{とく}小^{せう}依^いて万^{まん}死^しと免^{めん}
 一^{いつ}生^{しやう}を得^える^ると怡^{よろこ}び^び日^{にち}小^{せう}合^が掌^{しやう}一^{いつ}空^{くう}海^{かい}和^わ尚^{しやう}然^{ぜん}と礼^{らい}拜^{はい}す斯^{かく}て風^{ふう}浪^{らう}収^{しゆ}り^り
 追^お風^{ふう}吹^かて船^{せん}平^{へい}小^{せう}大^{だい}洋^{やう}を走^{そう}り平^{へい}城^{じやう}天^{てん}皇^{かう}大^{だい}同^{どう}元^{げん}年^{ねん}十^{じゆ}月^{げつ}十^{じゆ}三^{さん}日^{にち}筑^{つく}紫^し太^{たい}宰^{さい}府^ふ小^{せう}著^{ちやく}
 船^{せん}々^々れ眞^{まこと}人^{ひと}遠^{えん}成^{じやう}即^{すなは}ち空^{くう}海^{かい}遠^{えん}成^{じやう}太^{たい}宰^{さい}府^ふ清^{しやう}入^にる船^{せん}中^{ちゆう}の身^みを休^{やす}め其^{その}身^み
 唐^{たう}帝^{てい}の回^{わい}報^{ほう}を都^とへ奏^{そう}聞^{もん}せん出^いる^る空^{くう}海^{かい}和^わ尚^{しやう}唐^{たう}主^{しゆ}て授^{まか}り^りる經^{きやう}卷^{くわん}佛^{ぶつ}具^ぐ
 を二^に卷^{くわん}小^{せう}記^き録^{ろく}一^{いつ}眞^{まこと}人^{ひと}遠^{えん}成^{じやう}小^{せう}言^{げん}傳^{でん}て都^とへ上^あげ^げれ^れ斯^{かく}て聖^{せい}年^{ねん}大^{だい}同^{どう}二^に年^{ねん}正^{せい}月^{げつ}空^{くう}海^{かい}
 和^わ尚^{しやう}橘^{きやく}逸^{いつ}成^{じやう}と俱^い小^{せう}太^{たい}宰^{さい}府^ふと發^{はつ}足^{そく}て都^とへ上^あり^り禁^{きん}廷^{てい}へ参^{さん}内^{ない}あ^ある^る帰^き朝^{てう}せ^せ首^{しゆ}

と奏^{そう}聞^{もん}一^{いつ}前^{ぜん}小^{せう}記^き録^{ろく}と奉^{ほう}り^り如^{ごと}く唐^{たう}土^ど不^ふ得^える^る所^{ところ}の新^{しん}經^{きやう}の經^{きやう}卷^{くわん}二^に百^{ひやく}四^し十^{じゆ}二^に部^ぶ梵^{ぼん}
 字^{まん}眞^{じん}言^{げん}の續^{きん}等^{とう}四^し十^{じゆ}二^に部^ぶ論^{ろん}章^{しやう}三^{さん}十^{じゆ}二^に部^ぶ佛^{ぶつ}像^{ざう}十^{じゆ}軀^く佛^{ぶつ}器^ぎ九^く種^{しゆ}慧^{えい}果^{くわ}阿^あ闍^{あつ}梨^り
 十^{じゆ}附^ふ囑^{じやく}の宝^{ほう}物^{ぶつ}十^{じゆ}三^{さん}種^{しゆ}のれも金^{きん}剛^{かう}の標^{ひょう}珠^{しゆ}玉^{ぎよく}の軸^{じやく}小^{せう}莊^{じやう}嚴^{げん}と々^々を奏^{そう}献^{けん}
 ありを^を平^{へい}城^{じやう}天^{てん}皇^{かう}大^{だい}小^{せう}睿^{えい}感^{かん}在^{ざい}無^む吏^し小^{せう}帰^き朝^{てう}々^々の重^{ちゆう}空^{くう}と献^{けん}せ^せ義^ぎ
 を脚^{けつ}寮^{りやう}賞^{しやう}ありて種^{しゆ}の賞^{しやう}物^{ぶつ}を賜^{たま}り^り傳^{でん}来^{らい}の眞^{まこと}言^{げん}密^{みつ}乘^{じやう}を天^{てん}下^げ小^{せう}流^{りゆう}通^{つう}と々^々
 此^{こゝ}の眞^{まこと}言^{げん}下^げされ^れ高^{かう}雄^{きゆう}の神^{しん}護^ご寺^じと給^{たま}ひて任^{にん}侶^{りよ}せ^せめ^めの^のひ^ひ々^々此^{こゝ}時^{とき}橘^{きやく}逸^{いつ}成^{じやう}
 小^{せう}も入^い唐^{たう}勤^{きん}学^{がく}の功^{こう}を脚^{けつ}寮^{りやう}賞^{しやう}ありて是^{こゝ}又^{また}種^{しゆ}の脚^{けつ}寮^{りやう}賞^{しやう}を下^{くだ}され^れ去^そ程^{じやう}小^{せう}空^{くう}
 海^{かい}和^わ尚^{しやう}高^{かう}雄^{きゆう}神^{しん}護^ご寺^じ小^{せう}住^{ぢゆう}一^{いつ}專^{せん}諸^{しよ}弟^{てい}子^しと教^{きやう}属^{じやく}天下^{てん}下^げ小^{せう}眞^{まこと}言^{げん}宗^{しゆ}と流^{りゆう}通^{つう}せ^せ
 んと昼^{ちゆう}夜^や心^{しん}神^{しん}を凝^こめ^めの^のひ^ひ々^々並^{なら}小^{せう}朝^{てう}廷^{てい}小^{せう}平^{へい}城^{じやう}天^{てん}皇^{かう}脚^{けつ}寮^{りやう}病^{びやう}小^{せう}依^いて宝^{ほう}位^いを
 春^{しゆん}宮^{きゆう}小^{せう}讓^{じやう}らせ^せめ^め平^{へい}城^{じやう}の旧^{きゆう}都^とへ^へ遷^{せん}り^りの^の共^{きやう}嵯^さ峨^が天^{てん}皇^{かう}の脚^{けつ}寮^{りやう}と^とわ^わる^る年^{ねん}号^{ごう}も弘^{かう}
 仁^に久^{きう}年^{ねん}と改^かせ^せり内^{ない}裡^りの緒^{しよ}門^{もん}を赤^{せき}く修^{しゆ}理^りせ^せる^る工^{くわう}匠^{じやう}の功^{こう}已^い小^{せう}畢^ひ々^々を東^{とう}西^{せい}乃^の門^{もん}

羅刹来り権者の筆跡を誦し罪人を罰せよとて百技を鉄の索みく強く
 縛り苔と揚て散く小堅多ふと。百技苦痛不堪くの罪を懺悔し。免れり
 と注謝を。鬼どもよとて空と止る處と解救して何國ともかく去よと思は
 忽ち夢ハ覚るる其より後ハ五輪痺て生涯癡人と成ると。又小野道風
 空海和尚の書のひし朱雀門の額やび小大極殿の額の文字と見て朱雀
 門ハあてて朱雀門大極殿とてそれを大極殿なりと排り笑れられた。忽ち左
 右の腕痠痺とそれより筆と執て書とて小自在を成る。筆も絶世の能
 書かれを慄ひあが書れたる千跡以前より却て筆勢奇絶みえたる。此
 の人道風の慄筆と賞美せとて。彼世尊寺藤原行成卿空海和尚の千
 跡を深く尊敬して其書風を學び遂小日本三跡の一人と異國まで中華の名
 譽と傳へたる。菅原道真公も空海和尚の筆法を慕ひ學びて。是より能

書の譽とせし高うまひなり是ハ且かたて空海和尚ハ高雄寺の幽静なるを愛
 しの内裡小法務あるの余日ハ高雄寺の小住りのひるがえ来高雄寺ハ和氣
 朝臣清大居士佐八幡宮の神勅を蒙りて建てる所の道場にて神願寺と
 号せり。後小神護寺と改められ。然小空海和尚歸朝在後和氣清大
 息男真綱大夫空海和尚を深く信仰し。高雄寺の住侶とせり。思ひ其
 由を朝廷へ願ひしを即ち勅許ありて。偕々高雄神護寺と空海和尚小給りと
 一なり。然小寺門の額いさふ目の額を改められた。真綱新小額を造高雄寺へ寄
 附せん。朝廷其旨と奏達し。額面の書ハ空海和尚の深筆と願人と新額を従
 者小齋一高雄寺へ封れたる小折しも大雨の後乎清滝川の水漲り溢り淡川の橋
 流し落渡る便た便た。如何せん猶豫する小空海和尚ハ高雄寺小在て暗小
 真綱ハ額面の書と望む意と知覚し。弟僧小筆硯を持て坂の半途迄

下り真綱まづな向むかひ高たか声こゑ小こ貴き卿けい當とう寺じ新しん額がくを寄よ附つせしと是これと是これと持も持もせしと
 一い段だん始はじめ入いり。空くう海かい河がの橋はし落おれ渡わたりし人ひと更さらも煩わづらりし事こと。空くう海かい是こゝ所ところより
 額がく面めん小こ拙せつ筆ひつと揮かひいんあひ。其その額がくを高たかくさして持も持もせしと仰おほせし。真ま綱づな小こ空くう
 海かい師しの額がくの文ぶん字じと望のぞむ意いと早はやく察さつ知ちせしと驚き嘆たんしあは。此こゝ處ところと彼か所ところと小こ洞どう
 一いつ成なり隔へる。彼か所ところより額がくの文ぶん字じと書かく。如何いかうある方かた便べん小こやと不ふ審しんお。揮か者しやの刻こく
 るをとも。從お者しや小こ命めい額がくを高たかく指ささせて待まち居ゐる。空くう海かい和わ尚しやう小こ谷や川がわを隔へる其その間ま
 違ちがひ坂さかの巖いわ頭づか小こ之これのい後ご弟てい小こ持も持もせしと筆ひつと批ひて墨すみと合あせ。額がく面めん小こ向むかひて毫こゝろを
 揮かひし。小こ不ふ思し議ぎや其その墨すみ雲うん霧きのいく空くう中ちゆうと飛と到たうる。額がくの面めん小こ神しん護ご國こく祚そ真ま言げん
 寺じと墨すみ黒くろ小こ著しやく且かつ筆ひつ勢せい類るいか書かのいくも小こど。真ま綱づなを先まに在あり合あ筆ひつ噫いと汁じゆ
 感かん嘆たんとる声こゑ洞どうの水みづ音おん小こ雜ざつりて少すこ時じハ鳴なりも止とまり。真ま綱づなハ眼がん前ぜんの奇き特とくと見み
 て屢る讚さん美み。か多おほく不ふ思し議ぎの御おん墨すみ跡せき天てん賢けん小こ備びて後ご寄よ附つし。い。とて。拜らい辞じし

て都みやこ帰かへり糸いと内うちに在あり。汝なんぢ弟ていと奏そうし額がくを睿えい覧らん小こ備びれ。帝てい御おん敬けい馬ば嘯せうま
 しく先ま達だつの投な筆ひつと。い。今こん度ども谷や川がわを隔へて書かと渾こん更せい小こ凡ぼん夫ぶの及およぶ所ところ
 小こあは。其その佛ぶつ善ぜん薩さつの再さい誕だんあは。と。弥や却せつ信しん仰やうと増ぞうのいくも。斯かくて
 真ま綱づな小こ空くう海かい和わ尚しやう小こ高たか雄ゆう寺じ持も持もせしと寄よ附つり。今こん猶なほ右みぎの額がく高たか雄ゆう寺じの空くう
 去さ程ほど小こ空くう海かい和わ尚しやう小こ高たか雄ゆう寺じ小こ於おて。諸しよ弟てい子しと教きやう導だうれ。程ほど小こ各かく稍しやう金きん胎たい西せい
 部ぶの深しん理り小こ達だつせし。今こんハ天てん下か小こ真ま言げん宗そうと弘くわん通つうせん。弘くわん仁に元げん年ねん三さん十じゆうの春はる春しん春しん
 内うちありて真ま言げん宗そう流りゆう通つうの義ぎを願ねがひ。即すなは身み成じやう佛ぶつの理りを奏そう聞もんし。い。此こゝれハ帝てい其その法ぽう
 を尊そんじ。い。猶なほも諸しよ宗そうの高たか僧そうを召め集じふめ。小こ空くう海かい願ねがひ。い。此こゝれハ真ま言げん密みつ
 乘じやうの宗そう派はいの義ぎ可か否ひ如何いかう有ある。と。勅ちやく回わいせ。い。是これハ依よて諸しよ宗そうの碩せき德とく達だつ清せい
 涼りやう殿でん小こ居い流りゆうて空くう海かい和わ尚しやう小こ一いつ人にんを對たい人にんか。抑おさ欽きん明めい天てん皇かうの御おん宇う小こ佛ぶつ教きやう幼ゆうて我わが朝ちやう
 小こ渡わたり。聖せい德とく太たい子し隆りゆう人にん小こ佛ぶつ法ぽうを弘くわん通つうし。い。此こゝれハ依よて賢けん哲てつ入に唐たう渡わた天

一各佛法の真理を学究め七宗の行果と本朝の傳へとの未だ即身成佛
 の法を説くは皆と銘く学をそへ辨舌浪と起論難刃と研く法論一なる小
 空海和尚少くも屏くふとて其難問を言解ゆ又支詞義明して弁舌懸河の
 のごとく一言半句も滞りあはれむ満座の衆僧理小壓して口を憇く玉を簾の
 内の睿聞在と帝と首より並居る月卿雲客まで空海和尚の博識名
 弁と感嘆し満殿サ一寂寥と静まりたる時小空海和尚八南方小向ひて契
 印と結真言と誦と秘觀を凝し心肉身忽ち毘盧遮那佛の尊容と
 変じて八葉の白蓮の上小坐し白毫より赫たる光明を放しゆつと殿
 中さかづる琉璃の妙界のごとく光輝たる香復郁と薫じりたりたる中敷の
 僧細大不孩れ各陛下(ま)り下り首と低身と平伏て敬礼し帝と先くせり
 並居る諸卿も思ふと合掌禮拜ありたる少時あつて空海和尚結し印を

解て本相小還り再び生佛無二の真理を説ゆは衆僧も感伏して即身
 頓悟の疑を解君も脚感斜あつと遂小真言宗流通勅免の倫首と給るれ
 む空海和尚大不始の謹んで頂戴し是より君の脚信仰以前十侍
 女御宮妃緒宮方公卿大夫まで真言宗を尊び袈裟衣佛具其餘殿席
 を寄附する人日夜絶間なく一宗の繁昌天下の耳目と發りたり

東大寺蜂怪南園堂建立 高野山兩發伽藍並建

南都東大寺聖武天皇の御建立して重れ勅願所なれむは高徳の僧と擇
 て別當とせられ寺中の学寮小勤学とる僧多く天下小双あり繁昌の大伽藍
 千々々小弘仁二年の比大々四五寺行かる山蜂幾百ともあつて出来
 りて寺中の僧俗を救ふる小を救ふ者忽ち大不脹て痛疾堪
 ぐく惣身大換ひ出づ煩悶し終小死小乃不者數十人小れを諸人肝

を消種く小追拂へも却て其徒小逐ひて螿多程おとてあきて逃
 退た家小引籠り又出る更なり夜の出て緒用を并たつ小後小
 の家小乱入て螿多程の今小蜂を防ぐを休た僧俗とも寺中
 逃去て他所移住邂逅寺法を守僧命を捨て残り苗まると
 ともそれ蜂の害と防たの学業漸く廢まると法脈も絶たん
 くともおと皆此寺襄滅た大魔縁かりと歎たあり。帝其由と
 召て宸鏡安くも空海和尚を召とて。你東大寺小移り住て惡由の
 災害を退けいとも。即ち東大寺の別當小任のひたり是小依て空海和
 尚東大寺小のりて任のひたれ。不思議なるふきも群り出
 大蜂一疋も出る更か蜂の禍ひ忽ち止つる小と緒人奇異の思ひを
 一是ひく小空海和尚の法威小よるともわらうと感て退散せ僧俗

寺中へ還り任たり空海和尚東大寺小任職の間小種々の法を定
 り置るひたり。今の西室南院亦其跡なり。茲小大職冠鎌足公の南條小
 左近衛大将正四位藤原冬嗣公とて中々空海和尚の道徳を崇び師檀の
 契り浅くもやが真福寺、空海公の建立小して藤原の氏寺と定めれ
 され。猶も家門繁栄の為小と空海和尚と相議り弘仁四年真福寺
 の寺中地を見と八角の圓堂を營て建空海和尚直作の三日月不
 空罽索の觀音の像と安置して修行持念せしむ。今の南圓堂是之
 右の南圓堂修造のち入夫の中一人の老翁有つる一首の歌と録と
 補陀洛ののみの岸小堂たて今て果へん北の藤波
 とよも其後行方たて成り。空海和尚冬嗣公小語りて件の公羽春
 日大明神より小姿と現し藤氏の繁昌とてた義を告のひりわらと

仰せざるわど冬嗣公大い喜悦ありて春日明神幣と捧げ神恩を謝し
のひたる果して子孫繁昌一家富栄多むと芽出度うと去程
小空海和尚祈願の如く真言宗天下小流通しを望み足ぬと歎む
更限りわ其成就も帰朝の砌り船中ふと難風小遭伽藍を建させん
と誓ひ三股杵を抛ちし更を昼夜忘むとてその人をも弘法の繁榮お
暇なく空く数年と過しひたる今己小宗成就しされいば彼空
器の留す地を尋ん畿内近國を經聖しひたる大和國宇智郡小於
て一人の獵夫小往逢ひ其入表とんり小骨相異形お尋常お身
材高く筋骨逞しく面色黒く兩眼尖く光り身小藤織の衣と暑し脚
小革袴をきて太刀と帶弓矢を手挟し黒白二足の獵狗を牽らし空海
師御覽して獵夫小對ひ其許小且多深山幽谷と地廻り山々峯々小案内

よく知つり我小空海とて靈場を求め伽藍を造せんと大願ありて
廻小然る靈山ありを教られいと仰れ獵夫答て曰仰りて我小紀伊
國の獵入おて此年来近國遠國の高山深山を登らざる所もかく其中最上
の名山の所小紀伊國伊都郡の南小當て三面小山列り巒小開けて一流の溪水東
小流し峰從耳深深なるも羊腸さの險阻なり法重人を警むと猛獸人を
害むと絶頂おつるを廣たる平地ありて白日此の雲霞變夜陰ハ靈光曲
方小耀り伽藍を建せしと小小純小究竟の名山かり和尚り彼山を開死伽
藍を造せしを恐るる日本第一の佛場とかりん我もまた多ク受上せし
滅罪の二臂の力と助けまさんもあれ和尚彼地の案内を知りよまされ我
此二足の犬を貸すわとす此犬山路の導引をまかり率連するも獵
狗を貸すわと空海師深く懐ひ厚く礼謝を述べ犬を借りしを獵夫ハ



再會と約して別去り。空海師をこれより二足の狗を先かきて犬の生方へ歩往り。小西狗の野を過里を越山を全溪と廻り逐々二座の高山に登り平原の地を脚止り。空海師犬の挙動を感じし。実中獵男の言。如く畜生あり山路を列く。高山の路をゆく。知るを殊勝かんとて。二足の犬を賞し。宿山中の罝を眺望し。小実獵夫がせし。葱嶺銀漢をさそきて。白峯瑋を浴び。々々東西龍の卧る。如く南北虎の踞る。似て。浮查に乗る。忽ち天河入仙薬を嘗る。暗く神窟をぐる心地。峰の松風。煩惱の聲。此地の勝の鳥。無明の睡を覚。真宗修禪相應の靈地。佛法流通の聖跡。此地の勝る所。有るを。只管嘆美し。ひ。の。嚴。目。標。の。一。字。の。松。符。を。印。書。此。上。六。都。上。り。當。山。開。基。の。義。を。願。ん。と。て。下。山。の。ま。ま。二。足。の。犬。を。何。地。行。ん。影。の。も。ん。を。是。ま。こ。不。思。議。の。更。も。心。中。狂。り。ひ。ひ。山。を。下。り。て。都。還。り。

上の弘仁七年六月十七日表と奉りて。紀伊國伊都郡の南の山を入定の地。下。給。人。更。を。願。ひ。く。天。聽。滞。り。七。月。八。日。勅。許。の。旨。上。旨。と。下。り。り。是。の。依。て。空。海。和。尚。後。弟。泰。範。實。惠。赤。と。從。へ。彼。山。赴。け。官。符。を。給。り。人。夫。を。募。り。山。茂。用。各。ら。う。前。の。獵。夫。も。來。り。て。人。夫。と。も。小。草。と。苜。蓿。を。伐。土。を。あ。り。石。運。び。て。夫。を。助。け。り。空。海。和。尚。其。勞。を。謝。し。且。靈。地。を。指。示。し。り。禮。謝。を。述。ぶ。小。實。獵。師。も。當。山。開。發。の。義。を。悦。び。黃。昏。お。か。ひ。て。別。を。告。去。り。其。夜。空。海。和。尚。の。夢。亦。件。の。獵。夫。有。姿。衣。冠。正。しく。威。儀。刷。ひ。て。出。現。あり。空。海。和。尚。向。い。美。哉。と。師。信。力。堅。固。小。佛。法。弘。通。ある。が。也。我。後。小。實。獵。夫。の。姿。と。な。り。て。此。靈。山。を。教。示。し。り。真。六。此。山。の。禁。天。野。の。鎮。座。ある。丹。生。津。比。咩。命。の。子。高。野。明。神。か。り。と。昔。の。光。を。放。て。去。り。て。又。て。夢。覺。る。を。空。海。師。感。淚。衣。の。袖。を。作。り。し。ま。れ。ば。と。彼。獵。夫。八。人。お。し。と。思。ひ。く。小。實。と。此。山。の。守。護。神。お。く。在。り。と。連。

其跡を礼拜し神恩を謝し是より山を高野山と号け南山一社を以て高野大明神と鎮祭り又村殿の天野小丹生津姫命と鎮祭りの俱高野山の鎮守の神と崇仰のひたり又不思議なる山中と切拂せられ樹木の中小株の松ありて先年帰朝の節地ちりり龍猛菩薩傳來の三鉢儀茲と懸りたる空海和尚是と人のいひ得て感涙をむせし諸此靈器疾より此山小苗り伽藍を建ぬる地をとりて彼高野明神獵夫と化して我此山と指教のいひ時昼と紫雲たかびた夜に靈光耀々と告のいひも此靈器のあり奇持ふより秘教相應の靈地なる更是と以てまをりて歡喜踊躍の堪むとの三股杵と取て三度押頂れり即ち今猶高野山の室藏納り松三鉢の松と号して今の世でも繁茂せん斯て草菴成就しをれを空海和尚本懐のいひ是より都の法勢の暇ある時高野山の菴室に住て行ひ燈りのいひ

其後弘仁十年嵯峨天皇御悩み深りひれを醫官の面々肺肝とぞ死良方と考て御薬と勸め奉りたりも更其験なりを空海和尚を召して加持せりいひ所御悩平痊在りたり是より依て睿感斜るは其御恩賞して高野山の伽藍を速小建立し得るを勅詔を下りしより諸卿倫命と奉りり番匠治工數百人の入夫を遣り奉行頭人諸職人を勵し昼夜を捨す堂舎の經營と急がるる由に匠業を以て堂塔樓閣房舎の造玉と磨りて造宮し空海和尚の指揮に従ひ南天竺の鉄塔の擬して高さ十六丈乃多室の浮屠と建たるを二層の甍八段中小輝れ九重の輪ハ雲外小鮮りたる塔の中六丈尺の太如來の佛像と安置し其余八尺五寸の菩薩の像四軀を居置猶より山の真窟く入り一院を建入定の室と定めり今の真の院の御影堂是也九高野山開發弘仁七年七月より山を開れり十年の其佛閣僧房鐘樓鼓

樓大塔山門いづるま盡く成就いづるま日年五月三日落慶の法吏と執行いづるま高野山金剛峯寺と号日本弟の名利と成り戒一度悉結いづるま輩八十惡五逆の罪も滅いづるま三惡道の苦患を免いづるま成佛得脱するいづるま更疑ひいづるまと云

因小曰高野山の伽藍修造のせの地を堀平いづるまと云一の石龜を堀出いづるま内と檢められ小長五尺幅いづるま二八歩の密劍を藏いづるま空海和尚是を得いづるま深く

感映いづるまのひ此山まいづるま古仙の遊いづるま所いづるま更此密劍を以て知いづるまとて劍を秘藏いづるまのひいづるま後年勅命いづるま依て天覽いづるま備られいづるま其依朝廷いづるま前置せいづるまひ

然小類いづるま小怪異の更いづるま續いづるまれいづるま博士いづるま小いづるまとせいづるまひいづるま高野山の劍の宗いづるまと云いづるま奏聞いづるま中々いづるまの銅の筒いづるま納りいづるま回いづるまのいづるま高野山いづるま返いづるまのいづるまと云

東寺賜空海西寺賜守敏 空海守敏法方優劣條

弘仁十四年正月大納言正三位兼右近衛良房を以て空海和尚小洛の東寺と給

りりり日時小南都の守敏僧都小洛の西寺と給いづるま柳東寺西寺いづるま古乃鴻臚館いづるま唐土より来朝いづるまする使者を侍いづるま御食いづるまするいづるま旅館いづるまたりいづるまと桓武天皇の御宇いづるま小寺いづるまといづるまかいづるまのいづるまひて東寺西寺と号いづるまられいづるま是平城の東大寺西大寺いづるま小准いづるませいづるまれいづるまたりいづるま空海和尚東寺と拜領いづるまありいづるまて則いづるまち寺いづるま中いづるま准頂院いづるまを建

る唐土の香龍寺の法式いづるまの效いづるまひ毎歳いづるま二序いづるま灌頂いづるまの法いづるま更いづるまを執行いづるまれいづるま惠果

禪師より付囑いづるませいづるまれる健陀國いづるまの穀子いづるまの袈裟いづるま衣いづるまけいづるま念珠いづるま唐帝より拜受いづるまの

珠數唐土より結末いづるまのいづるま百餘部いづるまの金剛乘いづるまの法いづるま文いづるま三圓相承いづるまの佛舍利佛像

ホと盡く大經藏いづるま小納いづるまりいづるま永いづるま當寺いづるまの付室いづるまといづるまとせいづるまれるいづるま凡いづるま真言いづるま三部いづるまの秘經

の中小東寺いづるま金剛頂經いづるま金剛頂經いづるまの道場いづるまといづるまなりいづるまて專いづるまらいづるま金剛界いづるまの法いづるまを修いづるます

秘密曼荼羅いづるまもいづるまび空海和尚自作いづるまの佛像いづるま二十軀いづるまを安置いづるますいづるまるいづるまがいづるまくいづるま秘密傳法いづるま弥勒山いづるま普賢いづるま持院いづるま金光明いづるま天王いづるま教主いづるま護國寺いづるまと号いづるませいづるまれる

是より空海和尚一時高野山行以一時東寺小在。弟子
 を導り夜生を化益しゆ。是は且て空海和尚一時小西寺と給ふる
 守敏僧都も法力勝りて知識たりを。嵯峨天皇常小宮中召置経論と講
 せさせ御聽聞遊され空海和尚小方も御依在るが一時御手と淨り火
 と湯と石とせむいし殊の外沸湯ゆ余り焚りたりを。御手と兼り
 折り守敏僧都糸肉して御前小居合され此体を入て袖の中灑水の印を結
 是なるふとさし中の熱湯を冷水とたりなる。帝後召置は是は何なる史と
 御不審ありなる時守敏完示と日し御湯のあやう小熱くんえさせゆいし抽
 僧水印を焚く冷しむりたりと奏せられなる帝大い感づゆは法力の勝り
 御賞美在りなる其後一時守敏糸肉せられなる小時も極寒の節
 其貝殊更寒氣嚴しうを御火鉢を召寄りし御座の四隅小置せ

ゆいて守敏と御物語りし小大なる火鉢小炭を山の積りたる炭數多並
 焚きこれに火氣熾んむり恰も五六月の暑氣の如く。帝御額小汗を流しゆい
 守敏小向せゆいて此火氣をも鎮る法やあると勅問ありなる小僧都答ゆい
 易れ御更ふて即時火氣と鎮ゆいと。例の如く袖中小て又水印と結られ
 今今と燃ゆと燈多し紅炭皆消然とて一日小冷炭とわり忽ち火氣散
 して日の寒冷とわりふなる。帝是が皮骨感在り守敏の法力と御賞美ありて
 數々の被物を給り弥御依在りたり。其翌日空海和尚糸肉ありて御
 簾間近し伺候せられなる帝平日の如く四方の方の御物語の如く守敏僧都
 両度法力と顕せし義と語せゆいなる小空海和尚微笑し。佛道と修行ゆい
 者左程の義い奇とする小足ゆいなる。小小兒の戯ゆいと。其後小渡莫空海脚殿
 中小侍り守敏といふも其法力絶えられゆいと。帝御心小疑はせゆい

空海殿中不在とて守敏の法力の行けざる更や有らば此六兩僧が法力の勝劣を試みんと思召空海は向ひて此を和僧に彼所の空海内小隠てうらひ守敏を百寄て法力を絶きやんと詔ありて即尅宣人小余りの守敏僧都を召れたる是亦依て空海和尚の側御簾の内小身を隠して守敏の衆内侍待りし時斗あつて守敏僧都参内せられし帝は祥と是を知りて御風情も浄平の湯を持ちて身小兼て内勅を奉りて内侍典角盟湯玉の多きりの熱湯を汲湛て捧げ出君の御前さう上られし帝御覽に是六殊の外湯の熱れと宣いば守敏を御覽の僧何時のやと来りしや幸乃折らち此湯と冷し得ませよと勅りし僧都唯し領掌し袖の中水印と結れども更亦湯は冷ざりし守敏是如何とて再び咒語を唱へ印と結みせども尚少しも冷れぬ帝局を召て水と入せりて御手と浄めり又昨日ごとく火鉢

小紅炭と堆く積ると數多寄りし玉座の両辺小置せし守敏と御物置在りち火氣宮中充て帝御額小汗を流しし守敏先中徴心と又袖中小水印と結れども火氣消せし倍熾んわたりし守敏二度の不覺小心中女々とは是は何なるやと我わが不審暗申を忙然とて惘果多時側乃翠簾の内より空海和尚徒客とて立出の守敏小向ひて如何や僧都各月の前小と星辰光を絶しと仰れし守敏大赤面一言も答ふる更能くとも手も悪く小脚前退出せし守敏心中空海和尚を深く恨み西寺歸ても心快くして樂すと何卒空海小耻辱とて此恨を晴さんものと嗔怒の熾み心と焦されし是を兩僧遺恨の始と云われり

嵯峨天皇御議位

守敏空海初兩争行力條

弘仁十四年の嵯峨天皇右大臣藤原冬嗣を召れ詔しひりる朕己卯年老

て朝政を聴小頼に依て帝位を太子小鎌人と思ひ卿より譲位の義を執
てくひいと宣ひしれども嗣公謹んで奉つるの古より聖人を聖人を知とせ
今陛下仁徳唐堯の優らせの皇太子大伴親王より虞舜の聖徳もあさ
く若むされを万機の政教を付託させの支誠天下の慶幸何更う身小過
るれ然も近年諸國凶作續れ万民飢餓の患小昔の時節にては上皇
在と上君より太上天皇とあむむ恐らく士民の貢物嵩て民の歎れと成
いぬに俯て願くは今暫く年の豊熟を成待せめて後御讓位かむ万
民の大幸とるむの素りいさ御衰老と御齡おてもとせむの御讓位
の御更さの晩とやめてもいすと啓奏ありとて帝は名御が練も一理有と
いと太子の賢明朕もるる勝れを帝位を傳ふ万民の為とかりあかり近年五
穀不熟なる朕が徳の薄たゆむれを太子位小即を年豊饒小飯とて朕が心

己を決せりて敢て練を用ひむされども嗣公も此上力たると群臣小君の勅詔を
つゝ遂小皇太子大伴親王を十善の定位小即なり人皇五十三代の聖主と仰死
奉らる此君を淳和天皇と称されり即ち桓武天皇第三の皇子小即御母小皇太
后藤子と藤原百川の女おて在り御即位の大札を執行平城帝と前の
太上天皇と嵯峨帝と後の太上天皇と尊号もりの年号と改め天長元
年と改えありと嵯峨天皇の皇子正良親王と春宮小即なり其年乃九月
小後の太上天皇嵯峨の離宮遷りかんとて中納言藤原三守とて其義と淳
和天皇奏聞させりしれども新帝勅許在り有司小勅詔を下り日室寮車及び
供奉の公卿前隨後従の武士を定め行幸の儀式厳重小整へんと仰出され
るる上皇固く御辞退かむしれども王上再三勅許せりし承りしに遂小
前駈兵杖の儀式を差止られ御馬小召れ供奉の官士少く召連りいさ小差

城の離宮に幸がけのひる。是ひく小儉約を民小平に奪得と絨りむらんとの
脚吏とぞゆへに絨小難有聖君おてどおりる。斯て其年も暮明る天長二
年の春より夏うけ三月の間雨曾て降を。諸國とも旱魃とて農民們耕種す
るに水の便を失ひ大に困窮おもひを淳和天皇宸襟を悩みの群臣を
召して脚評議あり。此上を行徳勝き僧綱小命一雨を祈せよと勅詔在る
を西寺の守敏僧都早くも洩して急死矣内して奏する。貧道守敏多年
身命と抱つて佛道の真義を學び究め就中祈雨の法小熟しんを此度の祈雨と
拙僧小命とむつるを願ふ。是空海和尚勅命の下らぬ前祈雨とて雨を
降して空海師小鼻あせ。先年の遺恨を晴さんとの心巧となり。執奏の公卿其直と
奏聞おもひを帝も脚信仰の守敏願ひを。守敏小聖法の義と命す
る。宣旨と下り。守敏大に悦び謹んで勅命と奉り。一七日と出で大雨と

降せしんと大言し帝殿の大庭小祈雨の檀を構種々の供物を調丹絨を疑して祈
り。小実も其詞の。七日の朝より雲四方小起りて浴中闇れ。夜交の。雷
電鳴ひつれ大雨降出。車軸を流さ如く。上帝王より下庶民小の。其
法力を感。あて。斯て三時をう雨降て天霽。帝有司小命。雨の霽す処を
檢見せし。漸く東西兩京の。近國まで。雨及む。右司の徒。入りて
其由を。奏する。帝。斯て。普く耕作を助る。不足。とて。再び空海和尚
へ祈雨と命。宣旨と下され。守敏是を傳。て心中。女。と思ひ。西寺小於て
内。秘法を修。大小猪の雨龍を箇の瓶子の中。驅。電。秘符を以て封。籠。再び雨
の。不降。小。巧。多。嫉妬の邪念。恐。空海和尚。禁廷より祈雨と命。の。詔
命。と。給。り。る。小。達。人。で。奉。り。高弟真雅。實惠。真曉。真然。亦。率。て。神泉
苑。小。檀。を。儲。け。吞。戒。して。身。を。淨。め。檀。上。登。て。肝。膽。を。碎。れ。雨。を。祈。る。小。何。事。也

小や七日満すれども一滴の雨も降ざりぬ。大小研りひま素り天文易術小達一更
 を袖中卦を立天眼通の法を以て見ゆ。小雨の不降も理り守敏諸龍を驅て瓶
 中小封に竈し由かりぬ。空海師守敏が悪念を憎と徒弟小告て曰く我丹城と疑
 一雨を祈まども雨の不降も守敏法師其身の修法普く雨を降まも更不態と耻
 せと却り此空海を妬して雨竜を驅て封に竈雨を降まると巧むたり。昔天空の一角
 仙人も龍神を恨み瓶中小封に竈て世を早魘せり。美人の色も眼を奪り酒
 を盛まると法力破と却り龍神の為小崇を受て死せりと。守敏も例を知
 るが一時の妬心より空海に耻辱を取せん。諸龍を封て雨を止むる偏執の念を
 浅猿多れ抑天子恐まも空海をして雨を祈らせり。六敢て御戯しあも。天下万民
 の困苦と故にせむん人の聖慮して在るとを私の遺趣を以て上二人より下億兆
 の歎歎願も。更天下の罪人佛法の悪魔かり。それ天小向く唾を吐天と汚さんと

欲をもも天を汚と更態を却て其身を汚ると。將小守敏が習かり。其罪已小敏
 たるもの。渠小龍を封むるカわれ我す。雨を呼法力あり。や。此神泉苑の池中
 小美女龍王として阿耨達池の龍王の脚女も。守敏も人の行カも。驅更態す
 始より守敏が巧むと為更をまむ。疾も善女龍王を諸弟とて雨を乞ふの
 を不知て。すく日と重なり。一雨且過まも膏雨を降して普く万民の敷
 れを怡ひふ。及得まも。朝廷へ二日の日延を願ひ。芽を結んで。この蛇
 形を造り池辺の檀上糸糸りて。再び真言秘密の雲法を修し。丹城を抽り。祈
 る。更一日一夜及び。池の中より其長八寸むろの金色の小蛇出現し。檀
 上の龍の形代。一丈の頭の上糸糸り。真雅實惠以下の高弟の眼ハ。入る。其
 其余尋常の僧も。守護の公卿武士。八是と。更態を空海和尚神
 龍の出現を以て。大い歡喜あり。倍精神を勵て。祈りて。神蛇首と伸して

虚空亦向とひくく俄小風颯と吹下密雲の端より湧起ると比く一雷の雷
 鳴天外小夷たむる黒雲一矢充滿風勢倍強く雷電弥厲くして暴雨
 盆を傾るが如く降出りたる壇の周小扣僧俗も雀躍して悦むるはな
 此時西寺小守敏が秘封破とて瓶中の諸竜虚空亦飛登りとも小雷雨を
 降りたる由へ雨勢益前十倍浴中浴外の貴賤老若我を忘り踊舞怡ひ
 声雨の音小雜りて揚ぐ空海和尚之念願満足せりとて壇下より徒弟と
 從へ禁廷へ参りて帝大い睿感在り大僧都小任せられ若年の采地を給り
 たるを空海和尚再三辞退りとも勅許されし己妻を得て拜受ありて天恩
 を厚く謝りて依違して東寺へ歸院りしに去程小甘雨降更三日夜
 小余りたるを五畿七道雨のしぬぬ里中も潤る池も水溢と早割り赤土
 も泥地となりたる中も万民腹鼓を叩き喜ぶ空海和尚の法力を安んずる

空海の活如来と尊し真言宗小皈依を者幾億万の數限もたぬ念空海和尚
 乃法義世小盛んゆたかり是小相及て西寺の守敏僧都ハ空海和尚小不覺を
 取せんと諸龍と瓶裡小遍封トとも小善女龍王の威力より忽ち秘封破とて
 の針巧画餅となり空海和尚の法徳を知り不知も讚美しれ守敏憤怒の
 念心小滿腸も劫火のよふ焼るがごとく嗔嗔の焰消がされど此上空海を
 咒咀殺し前憤を散せんもの一時の嗔怒より大惡念を生じ寺中小一場の護チ
 檀を構へ上檀小孔雀明王と念珠持し水穀を断り一心不乱小新を護チの煙も空
 を調護チを焼し念珠持し水穀を断り一心不乱小新を護チの煙も空
 中小渦卷上り咒文を唱る声眞衆を誑を許して物凄も出るりく空
 海和尚ハ斯とも知り召して一朝廷前出り四方の本を見り西寺の方小あら
 怪し煙上り風小逆て東へ向ひ飛来りる小ど心訝りしひて私房より占



空海母

九



女人禁制と
相く
空海の
母種々此
怪異より

空海母

九

守敏僧都の御身を咒咀調伏す護天の煙に支頭をたれども我
 も火害滅除の法を修せん徒弟不申と祈の檀を毀させ不動明王の尊影
 を祭注連幣串種くの供物いづるも法の如調(ま)せ檀上(ま)座(ま)構(ま)護摩
 を焼(ま)水晶の珠數(ま)めて不動の真言(ま)唱(ま)丹誠(ま)を凝(ま)して祈(ま)ひる。され
 ば當時天下(ま)小名高(ま)れ權者(ま)と名僧(ま)の行力(ま)競(ま)ふ。多年(ま)修學(ま)の功(ま)を尽(ま)す肝膽
 を碎(ま)れ祈(ま)り合(ま)れ。程(ま)小(ま)西(ま)寺(ま)の護摩(ま)の煙(ま)東(ま)寺(ま)へあ(ま)びき東(ま)寺(ま)の黒烟(ま)西(ま)寺
 へ向(ま)ひ双方(ま)の煙(ま)雲(ま)の下(ま)く虚空(ま)不(ま)翻(ま)滿(ま)一(ま)凡(ま)夫(ま)の眼(ま)小(ま)と遮(ま)れね。双方(ま)の天部(ま)万(ま)眷(ま)族(ま)
 東西(ま)の雲(ま)中(ま)充(ま)滿(ま)と互(ま)射(ま)違(ま)る飛(ま)箭(ま)前(ま)兩(ま)の脚(ま)より敏(ま)く。昼(ま)六(ま)の影(ま)と曇(ま)り
 夜(ま)六(ま)の光(ま)も朦(ま)朧(ま)として傳(ま)帝(ま)釈(ま)修(ま)羅(ま)の函(ま)ひも斯(ま)やと見(ま)えて凄(ま)しく。去
 程(ま)小(ま)西(ま)僧(ま)二(ま)七日(ま)が回(ま)息(ま)をも吐(ま)む。祈(ま)合(ま)る程(ま)小(ま)更(ま)小(ま)勝(ま)劣(ま)からむ。何時(ま)果(ま)會(ま)とも見
 え。うぐれも空(ま)海(ま)和尚(ま)中(ま)小(ま)恥(ま)と一(ま)針(ま)を案(ま)出(ま)り。鱸(ま)魚(ま)とい(ま)魚(ま)を多(ま)く取(ま)寄(ま)き

せ寺内の庭(ま)に焼(ま)させ。其(ま)臭(ま)氣(ま)お(ま)ろ。死(ま)人を焼(ま)が如(ま)く。空(ま)海(ま)和尚(ま)す。風
 を呼(ま)法(ま)を修(ま)り。忽(ま)ち東(ま)風(ま)吹(ま)て。魚(ま)嗅(ま)を西(ま)へ吹(ま)送(ま)り。る。小(ま)と西(ま)寺(ま)の守(ま)敏
 此(ま)嗅(ま)氣(ま)と嗅(ま)て。偕(ま)に海(ま)我(ま)行(ま)法(ま)の為(ま)落(ま)命(ま)一(ま)今(ま)火(ま)葬(ま)あ(ま)る。あ(ま)んと大(ま)師(ま)怡
 慢(ま)心(ま)生(ま)ず。精(ま)神(ま)弛(ま)り。時(ま)珠(ま)數(ま)を標(ま)止(ま)一(ま)息(ま)吐(ま)と吐(ま)る。小(ま)忽(ま)ち呼(ま)吸(ま)の息(ま)断(ま)阿
 絶(ま)辟(ま)地(ま)と其(ま)依(ま)祈(ま)の檀(ま)上(ま)小(ま)斃(ま)死(ま)し。る。る。ま。今(ま)の世(ま)を。鱸(ま)魚(ま)を家(ま)内
 小(ま)く焼(ま)きた。更(ま)と。言(ま)傳(ま)る。嗟(ま)乎(ま)愚(ま)あ(ま)る。守(ま)敏(ま)一(ま)朝(ま)の妬(ま)心(ま)より。多(ま)年(ま)練(ま)修
 せ。佛(ま)道(ま)の本(ま)意(ま)を忘(ま)れ。空(ま)海(ま)和尚(ま)の如(ま)き善(ま)知識(ま)を。咒(ま)咀(ま)せん。却(ま)て其(ま)身
 を亡(ま)滅(ま)る。更(ま)所(ま)謂(ま)咒(ま)咀(ま)諸(ま)毒(ま)藥(ま)還(ま)著(ま)於(ま)本(ま)人(ま)の經(ま)文(ま)の如(ま)し。是(ま)去(ま)り。か。く。只
 緒(ま)龍(ま)を封(ま)し。困(ま)り。崇(ま)ある。慎(ま)む。香(ま)を。噴(ま)息(ま)たり。偕(ま)に守(ま)敏(ま)の弟(ま)子(ま)僧(ま)亦(ま)ハ
 師(ま)匠(ま)が檀(ま)上(ま)して。頓(ま)滅(ま)せ。と。んて。大(ま)い。後(ま)に。藥(ま)よ。水(ま)と。互(ま)強(ま)た。左(ま)右(ま)て。介(ま)抱(ま)し
 多(ま)れ。も。再(ま)び。蘊(ま)生(ま)つ。も。あ(ま)り。を。れ。為(ま)方(ま)方(ま)屍(ま)を。収(ま)めて。守(ま)敏(ま)死(ま)没(ま)せ。義(ま)を。朝

延(ま)奏(そう)聞(き)遠(とほ)小(こ)茶(ち)毘(び)の煙(えん)とどけ 是(こ)是(こ)西(さい)寺(じ)漸(ぜん)々(ぜん)小(こ)表(ひょう)微(び)一(いつ)東(とう)寺(じ)追(お)マ
繁(はん)采(さい)して末(ま)代(だい)の今(いま)まで堂(どう)塔(たつ)巍(ゑい)々(ぜん)然(ぜん)る全(ぜん)空(くう)海(かい)和(わ)尚(しょう)の法(はふ)徳(とく)ふす所(ところ)なり
其(その)後(ご)空(くう)海(かい)和(わ)尚(しょう)和(わ)州(しゅう)室(しつ)生(せい)山(さん)先(せん)々(ぜん)東(とう)國(こく)北(きた)國(こく)南(なん)海(かい)四(し)州(しゅう)の津(つ)浦(うら)へ
徑(かみ)歴(れき)止(と)して靈(れい)場(じやう)を兩(りやう)たのひの通(とほ)ぬ深(ふか)山(さん)高(たか)山(さん)の道(みち)と通(とほ)じ涉(せつ)る大(おほ)河(が)橋(はし)
を樹(じゆ)水(すい)脉(ま)ありた田(でん)畑(はた)水(すい)流(りゅう)引(ひ)車(くるま)方(かた)民(たみ)の助(すけ)たりひるまの緒(よ)國(こく)の民(たみ)信(しん)飯(はん)
依(よ)一(いつ)空(くう)海(かい)和(わ)尚(しょう)の御(ご)加(か)持(ぢ)と受(う)る者(もの)覺(かく)も起(おこ)聾(そう)もや之(これ)瘖(いん)も能(よ)言(げん)盲(めう)も目(め)を
明(あ)年(ねん)旧(きう)れ難(なん)病(びやう)業(ごう)病(びやう)も治(ち)せざるを生(せい)靈(れい)とて如(ごと)此(こ)あらむ増(ま)て況(いはん)や九(く)泉(せん)の
下(した)小(こ)迷(まよ)亡(むし)靈(れい)の成(せい)佛(ぶつ)得(とく)脱(だつ)とて更(また)推(お)して知(し)真(まこと)奇(き)代(だい)の和(わ)熾(し)ひて在(あ)る
母(はは)公(こう)阿(あ)刀(たう)氏(し)望(ぼう)登(とう)高(たか)野(や)山(さん) 山中(さんちゆう)怪(け)異(い)慈(じ)尊(そん)院(いん)之(の)條(じょう)
空(くう)海(かい)和(わ)尚(しょう)一(いつ)年(ねん)高(たか)野(や)山(さん)御(ご)在(ざい)在(ざい)の時(とき)母(はは)阿(あ)刀(たう)氏(し)介(け)師(し)小(こ)御(ご)對(たい)面(めん)ありて以(も)
て戀(こひ)しく思(おも)ひ久(く)々の御(ご)向(むか)顔(がほ)なりとて又(また)名(な)小(こ)高(たか)野(や)山(さん)の堂(どう)塔(たつ)をも

拜(まが)々(ぜん)男(なん)女(にょ)數(すう)人(にん)の從(じゆう)者(しや)を將(しやう)て續(つ)州(しゅう)展(てん)風(ふう)浦(うら)をまゝとて紀(き)伊(い)國(こく)へいりて高(たか)
野(や)山(さん)の替(か)小(こ)着(ちやく)て先(まづ)使(し)を空(くう)海(かい)和(わ)尚(しょう)の本(ほん)坊(ぼう)遣(つか)ひ登(とう)山(さん)とてたゞと通(とほ)せりこれ
れを師(し)步(ふ)後(ご)我(わ)母(はは)公(こう)遠(とほ)く此(こ)山(さん)來(きた)るを御(ご)志(し)まひも忝(かたじけ)なく當(あた)り山(さん)
を兩(りやう)弁(べん)の始(はじめ)より固(こ)く女(にょ)人(にん)結(けつ)城(じやう)の地(ち)と定(さだ)められ母(はは)とのひも登(とう)山(さん)ありて更(また)緒(よ)佛(ぶつ)緒(よ)
神(かみ)心(こころ)ありて暫(しばしば)時(とき)待(まち)多(た)く申(まを)せよ我(わ)今(いま)此(こ)の法(はふ)要(よう)なり果(はた)願(ねが)て下(した)山(さん)と母(はは)公(こう)小(こ)御(ご)對(たい)
面(めん)に進(ま)進(ま)とて使(し)の武(ぶ)士(し)を返(かへ)しひるまの母(はは)公(こう)を使(し)者(しや)の還(かへ)りて待(まち)ひひるまの
男(なん)女(にょ)の從(じゆう)者(しや)と將(しやう)て早(はや)花(はな)坂(さか)をりて羊(や)腸(ちやう)の山路(さんじゆ)を割(わ)りて登(とう)る所(ところ)小(こ)俄(が)然(ぜん)
と一陣(いちじん)の魔(ま)風(ふう)吹(ふ)起(た)り樹(じゆ)木(も)と動(どう)揺(ゆ)をせ砂(すな)石(いし)を起(た)り土(つち)煙(えん)朦(もう)朧(らう)とて前(まへ)路(じよ)も足(あ)り
えんふと成(なり)たれを母(はは)公(こう)をりて隨(したが)ひての男(なん)女(にょ)も是(こ)れけりぬ山(さん)風(ふう)ありて側(わき)の木(き)陰(かげ)小(こ)
ま寄(よ)り時(とき)休(やす)みひるまも風(かぜ)信(しん)烈(れつ)く刺(さ)し暴(はら)雨(う)降(ふ)り雷(らい)電(でん)濤(たう)く鳴(な)り内(うち)に山(さん)鳴(な)
谷(たに)谷(たに)震(ふる)動(どう)もる更(また)野(や)山(さん)の母(はは)公(こう)一(いつ)年(ねん)老(らう)ぬ氣(き)文(ぶん)の性(せい)をてめし心(こころ)も心(こころ)す

皇(こう)紀(き)言(げん)圖(ず)會(かい)名(な)考(こう)三(さん) 九(く)ノ

雷雨を犯して登りし隨從の者天変を恐るるに歩みて地亦匍匐あり又替
 逃下るも有果一人母公に従ふ者なり母公六足歩て三足吹戻る二足歩
 て五足跡退りあつ尚も登らんくも大雨亦車神を流とて登り集
 る所使者亦武士混浴成て走り来り此体をも母公と押止り大僧都
 の仰ふ當山を禁制せしむる登山りも更無と頓て僧都脚下山あり
 て却對面なりあつ回禁待せしむる脚更なり先刻より雷雨烈く山の荒れ
 女性の脚身も登山りも山神の咎も亦ていなり早く禁入脚下あり待
 ると練れども母公敢て承引かへり高山あり天狗魔縁の類も柵
 ぬり自余の女人を登山名叶も此山我ま用なる佛場なり然も其母も妻
 が登山も妨る魔障はもわらば雷雨時の天変の何と異とさる小足ぎ
 として武士が笛むる袖を振切心強も登らうも亦山上より暴風強吹嵐母公

を洞吹落さんとさる小を母公落れと側の巖の尖を両手ふと踏止り由
 一念力のあつ処も思ふと岩の尖を捨られ今も存て捨岩と稱するは是あり
 う天変も母公猶登山せん念共却て心中嗔生だん此身微塵
 小あるも登山せしむる悪風雷雨の屈せど衣服はすも裂破と白髪散く小
 ち乱れ下折の枝を杖身命と抛り登られも不思議やか降る雨
 火焔となり面を向れりもかたきも母公も惱果あや火雨の為小焼殺され
 んとさる所小空海和尚来りもひて路の側なる大盤石を斤半小く押上母公を
 巖の下へ押入るも母公其終阿絶もいなり花塚小名高き押上岩是なり空海
 和尚母公の絶死を脚覽り口中真言の秘文を唱りて頭小風雷雨電収り
 母公息を吹返り四辺を見廻り空海和尚の脚首を人上りし掌と合し伏拜の
 妻五障の罪深死身を顧す悪客者の絆小曳も置場を強て穢んたり巳小

火の雨ふ焼殺せんく其後八夢との現と申ふと廣くと暗光道か迷ひ小
いと恐ろし鬼出来りまを引立行んせ小端嚴微妙の如来光明を放つ出
現しひれを鬼の妻と離し何國をゆく行去如来妻小宜ひりも汝女人の身と
て結界の靈山に登んせりも諸天怒を殺し已小你余を滅せりんとせりされ
と申你が子の空海が法徳よりて予你余を助け再び汝妻世界へ歸りしおが
此後嗔慧の心を慎み佛道不可思議の理を疑ふ事あれ你空海を我子あり
と思ひもえを佛菩薩の應化して皆く你腹を借りのとなり必く我子と
思ひもて教諭しひの妻の手とて曰の路へ導れりもと申し夢の覺るごとく
蘆牛よりあふ尊の我子とて感涙を流し地お跪れて礼拜しひれと師を
杖け起しひ我此山を始より女人禁制と定めひを御登山脚無用とて使
者おやて入我下山とて脚對面をせんと思ひ少の法整たり果て下山ひ

小早も御登山ありて當時おも憂甚せんせりや小空海が運命の罪
たり怨しんと謝のひれを母公も懺悔ありて一時の我慢心小佛神の脚怒を
惹出せんと罪深え露脚身の科かたとして互小辞讓あり相伴て下山の
々々小隨從の男女林下待く母公の恙かれを賀し隨逐せざる罪と謝る小と
母公も衆人の無事を怕び主従を連て天野の菴お着のひり空海和尚を母
公と別後の御物語をありし此幸来脚側お在て事もなき不孝の罪お免し
んと謝り佛法の功德の廣大ある事とて御教化ありされ母公感涙を止
るもひ身の罪障消滅の事お尼おありし由を願ひひり師も御喜
ありて即時小戒を授けのひり母公御始ひ限なく遂小髪せりひ尼となりむ
ひれを呂使の男女も小緒と申剃髪の義を願る小空海曰く尼公の脚お抱
お女人とてよれ男子へ入道無用なるごとて女子許剃髪と許しひ男子の身

来心く差止り頻測歸らしむの諸幽静の地をえりて菴室を建御母尼
公と住らむのひる。是より尼公佛道心を傾けのひ昼夜二六時中勤行
怠りまを。終小七八才小大往生しり。空海和尚其亡骸を菴室の
側小蒸り脚跡懇小吊ひのひ菴室を佛堂とたのひ慈尊院是かを
其砌小不動坂の上小女人堂を建り。諸五十九才の御年藤原某卿乃志
願小依て万燈會と修せられ。空海和尚深く御賞美在り。燈明の徳ハ
日月の光小嗣無明の闇を照と成り。佛前小燈を供とる。其功德莫
大なり。況や万燈供養小於也。現當二世安樂ハ小及子孫般般昌乃祈禱
何更是小勝る。然れとど仰られ。斯く年月押移り空海和尚六十一才小
かり。御年の十月十五日。諸の高弟達小告て曰く我豫て二百才とせ住
て教法を守りし所存あり。思ふ子細あれ。明年三月入定。都率天住

生一五十六億七千万歳の後龍華三會の曉弥勒佛出世の時を待て我又此
娑婆世界へ生を純一切衆生を化度とす。高野山六真岳小附属。東寺を
実惠小預け弘福寺。真雅神護寺。真濟小授。と御遺言有る。高弟
達大ら小孫は是は何なる御更と。今幾年御在世なり。我徒小教示させ
り。願えども敢て御承り。猶後の更を御教誡有る。程か其年也
暮明と。仁明天皇の承和二年乙卯三月廿日寅刻本坊にて結跏趺座し。の
御弟子達小仰る。我眼と閉る。入定の期。真の院の室送る。と。大日如
來の秘印を結び。終小禪定入り。ひる。春秋六十二才と在り。御弟子達。曲
繞して。弥勒菩薩の室号と唱て居られ。已小空師御眼を閉り。ひる。各
悲哀の涙小三衣を絞らむ。偏小執尊の入滅を悲。諸羅漢小異あり。是
どの斯く有果なれ。あを。御輿小乗す。の。せ。定。真。直。如。真。濟。

眞紹。眞然。是を昇る。奥の院(移)す。七日の御後。忌厳重。執行の
 御弟子達。七日毎。奥の院。奉詣。あて拜。も。神色。少。の。斐。じ。む。す
 脚髪鬚。漸。小長。く。伸。さ。せ。の。ま。奇。特。な。り。斯。て。室。海。大。僧。都。入。定。か
 り。趣。を。朝。廷。奏。聞。あり。帝。仁。明。も。上。皇。和。も。脚。悼。大。方。あ。ま。恐
 妻。も。帝。は。是。が。政。事。と。獲。り。ま。す。三。日。及。む。日。廿。五。日。勅。使。を。以。て。脚。袈
 紗。座。具。如。意。香。炉。水。瓶。湯。器。等。と。贈。り。給。り。上。皇。も。院。使。を。主。の。辰。輪
 の。脚。吊。書。并。小。種。の。脚。贈。物。有。り。天。下。の。人。民。空。師。脚。入。定。あ。り。と。傳。貴。と
 かく。賤。と。か。く。悼。惜。さ。る。後。年。文。德。天。皇。の。天。女。一。年。十。月。十。七。日。大。僧。正。の。官。と
 贈。り。の。い。又。貞。觀。六。年。二。月。十。六。日。法。印。大。和。尚。叙。の。醜。酬。天。皇。の。延。喜。二。十
 一。年。十。月。廿。七。日。弘。法。大。師。と。謚。を。賜。り。る。絳。小。本。朝。無。双。の。名。僧。と。未。世。の。今。や
 扶。業。皇。統。後。編。卷。之。三。畢
 つる。追。脚。利。益。端。的。の。ま。や。も。中。疎。

名古屋
大曾根
矢野平兵衛藏版之内繪本書目

繪本中山草紙	一冊	秋葉 屢寺	一九の紀行	二冊	繪本草紙大全	一冊
繪本景清草紙	一冊		佐倉宗五郎實説	一冊	道歌百人一首	一冊
繪本對權草紙	一冊		梅川忠兵衛實説	一冊	繪本手遊	十冊
繪本尾梅 三郎草紙	一冊		太保彦左衛門實説	一冊	繪本あそび	一冊
冬楓夕の夕栄	三冊		宇都宮鈞天弁實説	一冊	繪入都々逸	五冊
近世七小町	三冊		伊賀越仇討實説	一冊	繪本庭訓往來	一冊
明治天一坊	二冊	萬	歳	一冊	柳川畫譜	三冊
繪本西郷一代記	二冊		繪本桃太郎代記	一冊	花鳥畫譜	一冊
名古屋七變人 刻	二冊		繪本厂金文七	一冊	繪本太閤記	十冊

